文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)

熊本県立上天草高等学校＆上天草魅力化コンソーシアム

K#Amax

Kami Amakusa ケイエイマックス

熊本県立上天草高等学校

http://sh.higo.ed.jp/kamiamakusa/

〒869-3603 熊本県上天草市大矢野町中5424番地

TEL 0964-56-0007

FAX 0964-26-5025

令和元年度指定　地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）　研究開発実施報告書（1年次）

令和2年3月　熊本県立上天草高等学校

令和元年度指定

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

研究開発実施報告書（1年次）

令和2年3月　熊本県立上天草高等学校

発行にあたり

現代社会において「地域格差」は大きな問題であり、現状のままでは、間違いなくもっと格差が広がっていくと思われます。そのような中にあって、本校のような地域の高校は、地域振興の核としての高校の在り方を追求することを最重要課題とし、これからはSociety5.0を地域から分厚く支える人材を育成していくことを一番に考えなければならないと思っています。

上天草市は、過疎地域自立促進特別措置法の規定に該当する過疎地域であり、様々な施策が講じられているものの、人口流出や少子高齢化が進み、産業の衰退、地域の活力の低下が深刻なものとなっています。また、他地域と比べて所得格差が大きく、「就職するなら公務員か資格が必要な職業」、「就職するならなるべく大きな企業に雇われることが大切」等といった意識が強い地域でもあり、地域の活性化に向けては、地域全体の意識改革も必要と思われます。

そのような上天草市にある唯一の高校が、上天草高校です。ただ、平成２２年４月に３校の再編統合により誕生した本校も、近年の少子化に加えて、従来から上天草市外の高校を選択する者が多い土地柄ということもあり、開校以来定員割れが続いている状況にあります。市外の高校を選択した若者はそのまま上天草市に戻らない可能性が高く、「本校の存続」＝「上天草市の存続」とも考えられ、地域の知の最高学府である本校には、「上天草で未来を切り拓くリーダーを育成する」という使命があると思っています。

その使命感のもと、本校は今年度から、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」（愛称は「Ｋ＃Ａｍａｘ」）の指定を受けました。本校は一昨年度県教育委員会から総合型コミュニティ・スクールの指定を受け、「上天草を愛し」「上天草を支え」「夢を追い続ける」という生徒に育ってほしいというビジョンを共有していましたので、育てる人材像は、それが基本になっています。

本校には、普通科、情報会計科、福祉科の３つの学科があり、今年度は１年生の全学科・全生徒を中心に「Ｋ＃Ａｍａｘ」に取り組みました。総合型コミュニティ・スクールとして地域と連携しながら活動を行っていたこと、地元の多くの方々が「今何とかしないといけない」という意識を持たれていることもあり、各所から多くの協力をいただきながらいろんなことに取り組むことができました。今年度の取組は手探りの状況ではありましたが、高校生ビジネスプラングランプリで「学校賞」をいただいたこと、研究成果発表会ですべての班が発表できたことなどを通して、生徒の様子には明らかに変化が見られ、大きな成果があったと感じています。

本校の目標は、高校の魅力化はもとより、地域の人々の意識を変え、地域全体の活性化を目指すことにより、地域の就業構造にまで変化をもたらすことです。そして、上天草と同じような課題を持つ地域に対して、本校の成果を「上天草モデル」として全国へ発信できるようにすることです。そのために、次年度以降さらに研究を進めてまいります。

最後になりましたが、この１年間の本校の取組に対しまして、上天草市をはじめとする各所の関係の方々から、御支援・御協力・御指導をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、本書をご覧いただいた皆様から多くの御助言等をいただけることを期待しまして、巻頭の御挨拶といたします。

令和２年３月

熊本県立上天草高等学校
校長　　生島　敬史

本事業の愛称について

愛称

「K#Amax」（ケイエイマックス）

K は上天草の K。ポルトガル語で昔は天草のことを AMAXA と表記。
上天草の魅力を最大限に発揮しようという意も含んでいる。
また、KAは経営という意味もかけてある。

ロゴタイプ

文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)
熊本県立上天草高等学校＆上天草魅力化コンソーシアム

K#Amax

Kami Amakusa ケイエイマックス

第１回運営指導委員会において、「生徒・職員・関係者が一体となって取組めるような愛称が必要なのでは。」との助言をいただきました。コンソーシアムと学校で協議し、愛称を設定しました。今後はこの愛称とロゴを使用していきたいと考えています。

もくじ

巻頭言
本事業「K#Amax」の概念図
もくじ
第１章　研究開発完了報告書　１
第２章　研究開発の詳細　１２
１　学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」　１２
（１）地域理解講座　１３
（２）先進出前講座　１５
（３）プロジェクト学習　１６
（４）フィールドワーク　１７
２　特別講演会　１７
３　地域住民との語り合い　１８
４　成果の発表　１９
５　都市（大阪）での調査および販売実習　２０
６　エキスパート生徒派遣　２１
７　ＳＣＨシンポジウムへの参加　２２
８　「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの推進　２２
（１）教科毎の年間指導計画の作成　２２
（２）ルーブリック評価表の作成　２３
（３）アイデアシートの収集および共有　２４
（４）授業実践シートの収集および共有　２５
第３章　資料集　２６
１　平成３１年度（令和元年度）教育課程表　２６
２　各委員会議事録等　２９
（１）第１回運営指導委員会　２９
（２）第２回運営指導委員会　３０
（３）上天草魅力化コンソーシアム第１回委員会　３１
（４）上天草魅力化コンソーシアム第２回委員会　３１
（５）上天草魅力化コンソーシアム第３回委員会　３２
（６）上天草魅力化コンソーシアム第４回委員会　３４
（７）上天草魅力化コンソーシアム第５回委員会　３６
３　報道資料　３８

第１章　研究開発完了報告書

（別紙様式３）

令和２年３月３１日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　熊本県熊本市中央区水前寺６丁目１８番１号
管理機関名　熊本県教育委員会
代表者名　　教育長　古閑　陽一

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和元年５月３０日（契約締結日）～　令和２年３月３１日

２　指定校名・類型
学校名　　熊本県立上天草高等学校
学校長名　　生島　敬史
類型　　地域魅力化型

３　研究開発名
「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成

４　研究開発概要
Society5.0 に主体的に対応できる地域人材を育成するため、すべての教科で学びの根幹となる「聞く」「話す」「表現する」力を高めるプロジェクトを行う。これらの力を根底に据え、地域や大学等と協働した学校設定科目である「上天草プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「地域起業研究」「地域イノベーション研究」を軸としたカリキュラム開発を行い、「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成を行う。その際、上天草市内小中高が連携して推進している起業家教育を大きな柱とし、持続的な地域の発展を念頭に、地域全体の意識の変革をもたらし、就業構造の変化につなげることをも目標としている。課外活動についても地域との協働を強化し、「地域の知の最高学府」である上天草高校の魅力化を推進し、地域への課題意識や貢献意識を持ち、解決に向けて主体的に思考・行動する人材を育成していく。

５　教育課程の特例の活用の有無
「総合的な探究の時間」に替え「上天草プロジェクト」「地域起業研究」「地域イノベーション研究」を実施するため、教育課程の特例を活用する。

6　管理機関の取組・支援実績

（1）コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

上天草市企画政策課、上天草市観光おもてなし課、上天草市危機管理情報課、上天草市教育委員会、上天草市教育委員会学務課、上天草市商工会総務課、上天草市社会福祉協議会地域福祉係、上天草市小中学校校長会、ＪＡあまくさ、天草漁業協同組合上天草総合支所、上天草市区長連合会、天草ケーブルネットワーク(株)メディア事業部、天草四郎観光協会、東海大学、熊本県教育委員会、上天草高等学校。

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年６月２８日	コンソーシアムを組織
令和元年６月２８日 （第１回）	第１回委員会 ・年間計画等について協議し、活動方針を決定　等
令和元年８月２２日 （第２回）	第２回委員会 ・地域人材に求められる能力およびその育成方法について協議し、研究推進委員会に提言　等
令和元年８月２７日	地域住民との語り合いへの参加
令和元年１０月２４日	全国サミットへの参加（委員２名）
令和元年１１月１日 （第３回）	第３回委員会 ・学校設定科目のシラバスについて協議し、研究推進委員会に提言　等
令和２年１月１０日 （第４回）	第４回委員会 ・上天草市まち・ひと・しごと総合戦略の概要確認 ・次年度事業計画および学校設定科目について協議し、研究推進委員会に提言　等
令和２年２月１２日 （第５回）	第５回委員会 ・本年度の事業報告ならびに設定した目標の進捗状況、成果、評価の実施。 ・次年度の事業計画を研究推進委員会に提言　等

※この他、生徒と地域の協働活動の斡旋およびサポートを随時実施。

（2）カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

上天草市地域おこし協力隊　元田農業(株)代表取締役　元田　有祈　氏

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年６月１７日	カリキュラム開発等専門家委嘱
令和元年６月１８日	事業関係職員とのカリキュラムに関する懇談 学校設定科目の全体における位置付けや３年間の見通しについて意見交換
令和元年６月２８日	コンソーシアム委員会でカリキュラムの方針等について説明 本校のカリキュラム全体のねらいと学校設定科目との関わりについての説明・協議
令和元年７月２日	学校運営協議会及び学校活性化対策本部会議
令和元年７月９日	沖縄県立名護商工高等学校 学校訪問団とのカリキュラム開発についての意見交換
令和元年８月７日	運営指導委員会でカリキュラムに関する説明と質疑応答 本校のカリキュラム全体のねらいと学校設定科目との関わりについての説明・協議
令和元年８月８日	長崎県立松浦高等学校 学校訪問団とのカリキュラム開発についての意見交換
令和元年８月１９日	１学期カリキュラムに関する協議 本校のカリキュラム全体から見た１学期事業の振り返り
令和元年８月２０日	長崎県立壱岐商業高等学校 学校訪問団とのカリキュラム開発についての意見交換
令和元年８月２２日	コンソーシアムにカリキュラム開発の進捗状況について説明 本校におけるカリキュラムマネジメントのあり方の協議
令和元年８月２７日	生徒と住民の語り合い 成果の検証とこれからに向けて
令和元年８月２９日	職員会議 事業の在り方と来年度に向けたカリキュラム開発の取り纏め 新学習指導要領と学校設定科目の関わりについての説明・協議
令和元年１０月６日	天草地区高校魅力創造フェス 天草地区高校職員との意見交換
令和元年１０月１７日	大矢野中学校高校説明会における生徒･職員との意見交換
令和元年１０月２４日	地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミットへの参加
令和元年１０月２８日	松島中学校高校説明会における生徒・職員との意見交換
令和元年１１月１日	コンソーシアムに全国サミットの報告 次年度における学校設定科目のシラバス案を提示
令和元年１１月６日	福岡県立山門高等学校 学校訪問団とのカリキュラム開発についての意見交換
令和元年１１月１３日	鹿児島県立大島北高等学校 学校訪問団とのカリキュラム開発についての意見交換
令和元年１１月２０日	学校運営協議会

令和元年１１月２１日	職員会議 地域との協働による高等学校教育改革推進事業に関する説明と Society5.0 について 本年度のカリキュラムの進捗と次年度カリキュラムについて 学校設定科目と他教科科目の関わりについて説明・協議
令和２年２月５日	研究成果発表会
令和２年２月２２～２５日	ＳＣＨシンポジウム参加

※日常的にカリキュラム開発について担当者との協議・提案をいただいている。

※「地域協働だより」を発行し、地域及び関係各所に配布することで、本事業の普及に努めた。

（３）地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

カリキュラム開発等専門家と同一人物

②実施日程・実施内容

（２）の②に記される活動に加えて、

日程	内容
令和元年６月１７日	地域協働学習実施支援員委嘱
令和元年６月２０日～	学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」 毎週木曜日６時限の授業に参加
令和元年９月１９日	生徒の探究活動のためのフィールドワーク先の設定と引率（地元観光業者・市役所）
令和２年１月６日	生徒の探究活動のためのフィールドワーク先の設定と引率（湯島）

（４）運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

荒木　朋洋（東海大学　九州キャンパス長）

田中　尚人（熊本大学　熊本創生推進機構　准教授）

堀江　隆臣（上天草市　市長）

足立　國功（熊本ソフトウェア(株)　代表取締役社長、熊本県産業教育振興会　会長）

大倉　尚隆（熊本日日新聞社　上天草支局長）

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年８月７日（第１回）	第１回委員会 ・事業の概要およびコンソーシアムの協議内容の共有 ・事業の取組および計画について協議し、今後の活動について指導・助言

令和２年３月４日（第２回） **新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止**	第２回委員会（中止） ・事業報告を書面で郵送 ・事業に対する助言等を書面で取りまとめ

（５）管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

管理機関として、コンソーシアムや運営指導委員会が活発なものになるよう努めたのはもちろんのこと、本校を「地域に根ざした学校」のパイロット校として位置付け、取り組みの普及に努めた。また、教育長、教育指導局長による学校訪問も実施した。

②事業終了後の自走を見据えた取組について

上天草高校は、平成２９年度から総合型コミュニティ・スクールとして学校運営協議会を組織している。学校運営協議会の委員１５名のうち９名は、コンソーシアムの委員を兼務しており、本事業におけるコンソーシアムで、地域協働活動やカリキュラム開発のノウハウの蓄積と大学を含めた各機関とのネットワーク構築を進める。事業終了後は、学校運営協議会がコンソーシアムの機能を継承し、学校と地域の橋渡し機能を担う予定である。

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

特になし

７　研究開発の実績

（１）実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」における地域理解講座		2回	1回			1回	1回		1回			
学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」における先進出前講座				1回			1回	1回	2回			
学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」におけるプロジェクト学習			1回	1回		3回	2回	2回		4回	2回	
学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」におけるフィールドワーク						3班				2班		
特別講演会									1回			
地域住民との語り合い					1回							

「聞く」・「話す」・「表現する」プロジェクト					８月から各教科の年間計画作成→アイデアシートの提出→授業実践シートの提出→ルーブリック作成を実施							
研究成果発表会（中間発表等を含む）								１回			１回	
都市部での調査および販売実習									１回			
エキスパート生徒派遣								１回		１回		

※フィールドワークは個別にフィールドワークに出かけた班の延べ数。

（２）実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

（ア）本年度の重点目標「全校的な研究開発体制の確立」

事業の成功に不可欠な全校体制の構築のため、職員の意識を高める取組を実施。本事業に関連する職員研修を３回、研究推進委員会を８回開催した。また、カリキュラム開発等専門家による「地域協働だより」の発行などを通して、職員の意識向上を図った。

（イ）地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施

学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」（１年生１単位）を実施した。探究活動の基礎となる知識・技能と地域の課題を発見するための活動に重点を置いた内容となった。地域理解講座６回、先進出前講座５回、地域住民との語り合い１回を開催した。また、地域課題解決のためのビジネスプラン作成に取組み、日本政策金融公庫主催の高校生ビジネスプラン・グランプリ（９月）に１７班全てが応募した。さらに、ビジネスプランや活動内容をまとめ、発表することで、自らの活動を振り返り、さらなる探究活動への動機付けを行っている。

１２月には、全校生徒対象に特別講演会を開催した。「自分と地域の未来をつくる学び」をテーマに（一財）地域・教育魅力化プラットフォームの奥田麻依子氏による講演会と上天草市長や本校生徒代表を交えたパネルディスカッションを実施し、全校生徒および職員の意識向上を図った。

（ウ）授業改善

複数教科が「目指す人材像」を共有した授業を行うことで、教科知識に関連性を持たせるため、「目指す人材像」および「具体的能力」の周知・確認を行った。

その後、全教科が「聞く」「話す」「表現する」能力を高めるための年間計画を作成。いわば、「各教科ができること」の集約をおこない、これを元にルーブリック評価表を作成した。

さらに、「聞く」「話す」「表現する」能力を伸ばす、授業における「小さな工夫」をアイデアシートとして集め、職員間で共有している。これを元に１時間の授業をデザインし実践、報告書としての授業実践シートも職員間で共有する仕組みを構築した。これにより、「小さな工夫」や授業実践の内容を共有でき、さらなる授業改善や教科の垣根を越えた新しいタイプの授業の誕生にも取組んでいく。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」（１単位）を総合的な探究の時間の代替として実施している。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

現時点では、１年生「社会と情報」における「個人の権利」「著作権」「情報発信」とポスター作成の時期を合わせるなど、「上天草プロジェクトⅠ」と他の科目との連動に留まっている。次年度、学校設定科目「地域起業研究」で横断的な学習に本格的に取組む計画である。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

（ア）都市（大阪）での調査および販売実習

【内容】

ⅰ．「島の宝プレミアムマルシェ in 大阪駅」で販売およびパンフレット配布

ⅱ．熊本の食材を取り扱う飲食店「熊本　馬源」訪問

ⅲ．上天草アンテナショップ「産直野菜ぷちトマト」（池田市）訪問　　など

（イ）エキスパート生徒派遣およびワークショップの開催（大矢野中学校）

上天草市における小中高一貫の起業家教育として、大矢野中学校との連携。

１回目は、大矢野中学校の生徒が自ら作成したビジネスプランを高校生に発表。

２回目は、上天草バザールにおいてワークショップを開催。中学生のビジネスプランを元に本校生徒と中学生が協力して磨き上げを行い、上天草バザールの来場者に発表した。

３回目は、高校生のビジネスプランを元に中学生と協力して磨き上げを行った。

（ウ）ＳＣＨ（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）シンポジウムへの参加

東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科主催ＳＣＨ（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）シンポジウムに参加。

⑤成果の普及方法・実績について

（ア）生徒の成果発表による普及

ⅰ．本校販売実習「上天草バザール」で中間発表として研究内容のポスター展示。

ⅱ．「上天草市地域ささえあい住民フォーラム」で本校の取組と地域課題を解決するビジネスプランをプレゼンテーション。

ⅲ．KSH（熊本スーパーハイスクール）生徒研究発表会のポスターセッションに参加。

ⅳ．政策金融公庫主催ビジネスプラン・グランプリへの１年生全員応募（１７本）。

ⅴ．研究成果発表会２月５日（水）に実施。１年生全員（１７班）がビジネスプランをプレゼンテーション。審査員（金融機関や地元経営者）からの指導助言。

（イ）ホームページを活用した普及

本校のホームページ内で活動内容を発信。

（ウ）「地域協働だより」の作成および配布

カリキュラム開発等専門家が、取組の普及を目的とした「地域協働だより」を作成し、関係各所および地域住民に配布。３回配布。

（エ）学校訪問による普及

本校からの訪問２校、他校からの訪問８校に対し取組を説明。

（３）研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラム開発等専門家は、「地域おこし協力隊」として上天草市で活動中の者を採用している。文部科学省で非常勤職員も務め、ＳＰＨ事業等に関わった経歴を活かしながら、学校内（生徒、教職員、授業、部活動、学校行事等）と学校外（地域内外の教育資源、行政、大学、ＮＰＯ、メディア等）をつなぎ効果的な学習活動を創出する役割を担っている。地域協働学習実施支援員は、カリキュラム開発等専門家と同一の者を指名している。

また、取組の中で出た課題や成果をカリキュラム開発にさらに反映させ、ＰＤＣＡサイクルの確立を引き続き目指したい。さらに、市内各所との連携はもちろんのこと、上天草市義務教育諸学校配置のコーディネーターとの連携や市の他の地域おこし協力隊員との連携も深め、ネットワークを広げながら、より充実した事業を展開していく予定である。また、専門家には、地域社会のリーダーとして必要となる力が身に付いているかという観点から、授業改善、授業の魅力化に向けて助言も仰いでいる。

カリキュラム開発等専門家と高校で策定したカリキュラムや指導計画に対し、コンソーシアム内の様々な立場からの提言をいただき、事業に反映させ、高校で検証し、コンソーシアムで協議するという役割分担を定める中でＰＤＣＡサイクルを確立し、よりよい事業の推進を目指している。

また、その取組を「上天草モデル」として広く普及を図り、本県教育の大きな柱である「地域の子どもたちは地域で育てる」の真の実現に結びつけたい。本事業の成果を「上天草モデル」として確立し、他校、他地域へと次第に波及しつつある。現在県独自で行っている「スーパーグローカルハイスクール」事業や、熊本県スーパーハイスクール指定校合同研究発表会（県内のＳＳＨ，ＳＧＨ，ＳＰＨ指定校が合同で研究成果を発表する会）を活用するほか、各種研修でも取組を紹介している。また、知事部局とも連携し、県の広報誌、広報番組で紹介するのはもちろんのこと、地域おこしの手法として各部各課にも紹介していく予定である。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

研究開発を主として担当する職員３人とカリキュラム開発等専門家（地域協働学習実施支援員を兼任）を、管理職中心の「研究代表者会」、教科主任・学年主任で構成された「研究推進委員会」で手厚くサポートする体制が構築されている。今年度は、学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」を実施する１学年団に、研究開発を主として担当する３人を組み込むなど、全校挙げて事業の成功に前進できる体制を整えている。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、

計画・方法を改善していく仕組みについて

研究の成果や課題を検証し、適切な評価を行う「研究評価検討委員会」を設置し、定期的に進捗状況の確認および計画の修正を行っている。また、小規模校であるという特性から「研究代表者会」のメンバーである管理職が現場に参加していることも多く、各事業の進捗状況や計画について意見交換が行われている。これにより、データだけでなく「肌感覚」を伴った研究開発の全体像を学校長が把握し、強いリーダーシップの下、研究開発を力強く前進させることができている。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

前述の通り、コンソーシアム委員会では、育成する地域人材像を共有するとともに、「地域人材に求められる能力およびその育成方法」とワークショップ形式でまとめたものを研究推進委員会に提言している。これを参考に学校設定科目のシラバスや「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの各教科年間計画づくりが行われていることから、カリキュラム開発に限らず、上天草高校の教育活動全般において、コンソーシアムの果たす役割は非常に大きくなっているといえる。

８　目標の進捗状況，成果，評価

（１）目標の進捗状況

①本構想において実現する成果目標（アウトカム）

	項目	2019 年度		2021 年度到達目標
		対象以外 2・3 年生	対象生徒 1 年生	
a	地域に魅力を感じ、愛着を持つ生徒の割合	86.9%	96.8%	90%
b	本校の取組によって、地域の新たな魅力を再発見した生徒の割合	85.4%	93.5%	85%
c	地域の課題を発見し、解決に向けて意欲的に取り組む生徒の割合	66.2%	93.5%	80%
d	将来、地域のために貢献したいと考え、行動する生徒の割合	59.7%	87.1%	75%
e	他者の話をしっかり聞き、理解できる生徒の割合	88.5%	85.5%	90%
f	自らの課題意識をプレゼンテーションし､伝えることができる生徒の割合	48.5%	69.4%	70%
g	高等学校卒業後、地元で就職する生徒の割合	41.9%		65%
h	高等学校卒業後、地元で就業したいと考えている生徒の割合	51.5%	64.9%	60%
i	高等学校卒業後、高等教育機関へ進学し、将来地元に戻って就業したいと考える生徒の割合	33.8%	37.9%	60%
j	上天草高校の教育内容を理解している地域住民の割合（本校事業に参画した一部の住民による）	86.3%		85%
k	上天草高校のカリキュラムが魅力的だと考える地域住民の割合（本校事業に参画した一部の住民による）	87.5%		80%
l	本事業が地域の変容をもたらすと考える地域住民の割合（本校事業に参画した一部の住民による）	83.3%		80%

②地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

	項目	2019 年度	2021 年度 到達目標
a	運営指導委員会の回数	1 回	2 回
b	研究代表者会の回数	2 回/学期	2 回/学期
c	研究推進委員会の回数	0.66 回/月	1 回/月
d	コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の回数	1 回/学期	1 回/学期
e	テーマに沿った研究授業の回数	0.3%	5%/授業回数
f	上天草市に関する地域理解講座の回数	6 回	5 回
g	高大接続研究の回数	0 回	1 回
h	プロジェクト学習の回数	15 回	10 回
i	研究成果発表会の回数	1 回	1 回
j	班毎の調査研究の本数	1 本	1 本
k	班毎の調査研究に対する大学教員等の外部指導者による指導回数	5 回	10 回
l	本校生徒を「エキスパート生徒」として授業に参加させ、起業家教育における課題研究についてアドバイスする延べ人数	31 人	20 人
m	高校生ビジネスグランプリへの応募（日本政策金融公庫主催）	17 本	5 本
n	ＩＣＴを利用した隔地者間のコミュニケーション（ＷＥＢミーティング、ＷＥＢディスカッション）の回数	0 回/学期	1 回/学期
o	国内大都市及び地方都市におけるマーケティング調査及び販売実習の回数	1 回	1 回
p	全国サミットへの参加回数	1 回	1 回
q	本取組専用 HP 開設および更新回数	0.6 回/週	1 回/週
r	研究開発実施報告書の作成回数	1 回	1 回
s	上天草市報の広報特派員の取組による紙面掲載回数	5 回	5 回
t	高校生による天草ＣＡＴＶ（天草地域のケーブルテレビ局）での番組制作本数	0 本	1 本
u	観光協会が所有するキッチンカーによる、開発した商品の販売回数	1 回	2 回
v	本事業（現在の本校の取組）が魅力的だと考える保護者の割合	86.5%	85%
w	本事業（現在の本校の取組）が魅力的だと考える生徒の割合	91.4%	85%

③地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

	項目	2019 年度	2021 年度 到達目標
a	コンソーシアムの活動回数	5 回	6 回
b	地域理解講義の講師数	12 人	10 人
c	プロジェクト学習の語り合いへの参加数	36 人	80 人
d	地域住民等の研究成果発表会への参加数	30 人	100 人
e	上天草バザールにおける協力者、来場者数	1,856 人	2,100 人
f	福祉科の実習等に携わる事業所等の数	16 事業所	22 事業所

（２）成果および評価

①政策金融公庫主催第７回高校生ビジネスプラン・グランプリ学校賞受賞

１年生全員（１７班）がビジネスプランを作成し応募したところ、「起業教育の推進を熱心に取り組んでいる学校」として学校賞を受賞することができた。

②１学年生徒の変容

（１）の①「本構想において実現する成果目標（アウトカム）」で挙げた数値だけでなく、７月実施の「高校魅力化評価システム」においても、他学年に比べ１年生の数値が軒並み高くなっている。これが本事業の成果であるかどうかは、次年度の数値との比較が必要であるが、少なくとも職員は手応えを感じている。

9　次年度以降の課題及び改善点

（１）生徒の活動時間の確保（内容の精選）

学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」において、地域理解講座などのインプットと成果発表やビジネスプラン・グランプリへの応募などのアウトプットの機会は確保することができた。しかし、インプットされた内容をじっくりと熟成させる時間を確保できていなかった。次年度は、内容を見直すとともに授業時間を確保することで、じっくりと探究活動を取組む環境を整備する。

（２）「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの充実

本年度の授業改善への取組は、準備と計画が中心で成果を残すことができなかった。次年度は、ルーブリックを全教科共通の目標に掲げ、新しい授業の開発に取組む。また、各教科のシラバスの見直し、教科間で関連する単元の学習時期を連動させるなど、教科横断型の授業開発を進めていく。

（３）大学との連携強化

今年度は、（１）で述べたように、生徒がじっくりと探究に取組む時間がとれたとは言い難く、大学等の専門機関と連携するような場面を創り出すことができなかった。次年度は、上天草プロジェクトⅡでじっくりと高度な探究に取組むことが可能と考えられるので、新たに大学との連携強化にも努めていきたい。

（４）ICT を活用した新しい学びへの挑戦

本年度は、Classi を導入し、オンライン学習システムを活用した自学力育成を開始できた。しかし、当初の ICT を利用した、大学の先生方や熊本県内に配置されている指導教諭とのＴＴなどを遠隔等で行い、教員の指導力向上を図る計画は、十分な環境が整備できず ICT を利用する機会をつくることができなかった。次年度は、授業だけではなく、遠隔地とのコミュニケーション手段としても、ICT の利用を推進していく。

（５）地域学習実施支援員並びにコンソーシアムの機能継承

事業終了後に向けて、地域学習実施支援員並びにコンソーシアムの機能を総合型コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会等が継承するための準備をする。

【担当者】

担当課	熊本県教育庁教育指導局高校教育課	ＴＥＬ	０９６－３３３－２６８５
氏　名	釜賀　健司	ＦＡＸ	０９６－３８４－１５６３
職　名	指導主事	e-mail	kamaga-k@pref.kumamoto.lg.jp

第２章　研究開発の詳細

1　学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」

地域の現状を理解し、その中から課題を発見し、分析する力、克服して解決に導く力を養う。また、発表を通じてプレゼンテーション能力を養う目的で実施。週１単位。

上天草プロジェクトⅠ実施内容

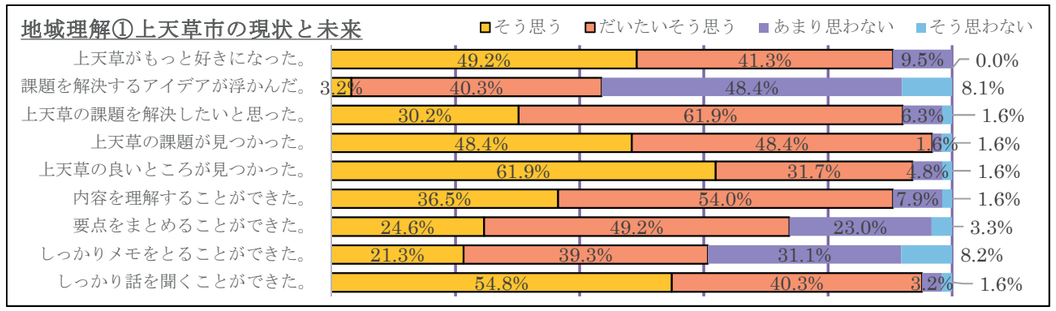
期日	内容	内容詳細	備考
4月11日	オリエンテーション　1	【 雇われる就職から創り出す就職へ 】	
5月16日	地域理解講座　1	【 市の現状と未来 】	上天草市副市長
5月30日	地域理解講座　2	【 ６次産業とブランド化 】	市産業政策課
6月13日	地域理解講座　3	【 観光 】	市おもてなし観光課
6月20日	プロジェクト学習　1	【 テーマ設定・班分け 】	
7月4日	先進出前講座　1	【 ビジネスプランを創ろう！ 】	日本政策金融公庫２時間
7月11日	プロジェクト学習　2	【 収支計算の演習とプラン作成 】	
8月27日	地域住民との語り合い　1	【 上天草の困り事を語り合う 】	
9月5日	プロジェクト学習　3	【 研究、フィールドワーク 】	
9月12日	プロジェクト学習　4	【 研究、フィールドワーク 】	
9月19日	プロジェクト学習　5	【 ビジネスプラン完成 】	
9月26日	地域理解講座　4	【 上天草市の水産振興について 】	市農林水産課
10月10日	地域理解講座　5	【 上天草の地場産業を知る（内航海運業） 】	市産業政策課
10月17日	プロジェクト学習　6	【 研究、フィールドワーク 】	
10月24日	先進出前講座　2	【 デザインの基礎 】	崇城大デザイン学科
10月31日	プロジェクト学習　7	【 中間発表準備 】	
11月7日	プロジェクト学習　8	【 中間発表準備 】	
11月9日	中間報告展示　1	【 上天草バザールにて展示 】	ポスター展示
11月14日	先進出前講座　3	【 地方創生～地域おこし協力隊の取組～ 】	地域おこし協力隊
11月28日	プロジェクト学習　9	【 研究、フィールドワーク 】	
12月3日	先進出前講座　4	【 プレゼンテーションの基礎 】	現地研修旅行
12月3日	地域理解講座　6	【 上天草市の開発プロジェクト 】	
12月12日	先進出前講座　5	【 映画でつなぐ地域の魅力 】	
1月9日	プロジェクト学習　10	【 研究および発表準備 】	
1月16日	プロジェクト学習　11	【 成果発表会準備 】	
1月23日	プロジェクト学習　12	【 成果発表会準備 】	
1月30日	プロジェクト学習　13	【 成果発表会準備 】	
2月5日	研究成果発表会　1	【 生徒研究成果発表会（上天草の虎） 】	アロマホール
2月20日	プロジェクト学習　14	【 成果発表会の振り返り 】	
2月27日	プロジェクト学習　15	【 次年度へ向けた課題設定 】	
3月12日	休校のため中止		
3月19日			

（1）地域理解講座

地域に密着した課題について、市役所等から講師を招聘し、講義形式中心で今年度は６回実施。地域を知り愛着を持ち、地域の課題を知ることを目的とする。聞いて、メモを取り、要点をまとめる能力の向上も図る。添付されているグラフは、各講座終了後に実施した自己評価の集計。

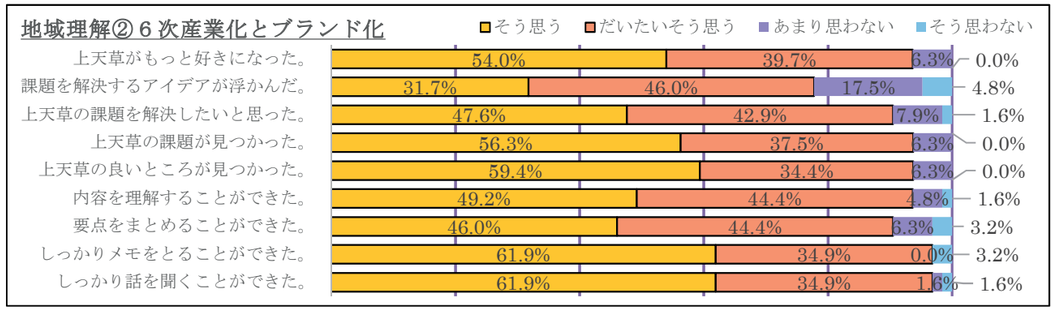
①「上天草市の現状と未来」

期　日：令和元年５月１６日（木）１０：５５～１１：４５
場　所：上天草高校視聴覚室
講　師：上天草市副市長　小嶋　一誠　氏



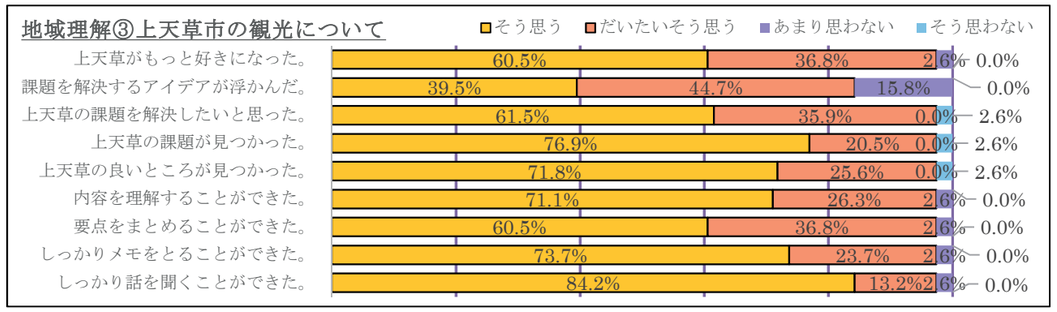
②「上天草市の６次産業化とブランド化について」

期　日：令和元年５月３０日（木）１４：５０～１５：４０
場　所：上天草高校視聴覚室
講　師：上天草市役所　産業政策課　産業創出係長　大野　公二朗 氏
　　ふるさと産業係主幹　山川　葉子　氏



③「上天草市の観光について」

期　日：令和元年６月１３日（木）１０：５５～１１：４５
場　所：上天草高校視聴覚室
講　師：上天草市役所　おもてなし観光課　観光振興係長　寺中　寛人 氏



④「上天草市の水産振興について」

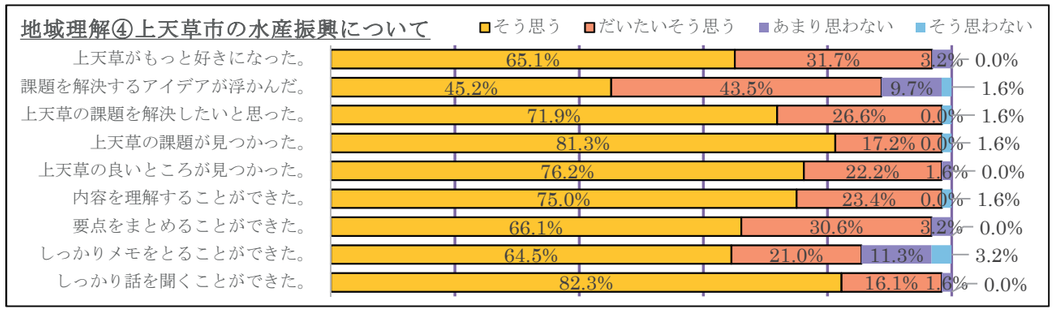
期　日：令和元年９月２６日（木）１４：５０～１５：４０

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：上天草市役所　農林水産課　課長　水野　博之 氏

参事　桑田　桂　氏

主事　渡辺　孝二　氏



⑤「上天草市の地場産業を知る（内航海運業）」１４：５０～１５：４０

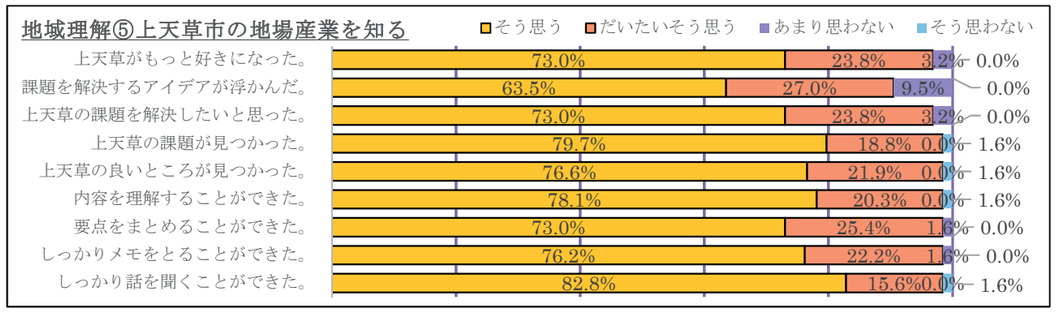
期　日：令和元年１０月１０日（木）

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：株式会社　雄和海運　浦山　秀大 氏

上天草市役所　産業政策課　係長　小松野　洋己　氏

主事　宮崎　克也　氏



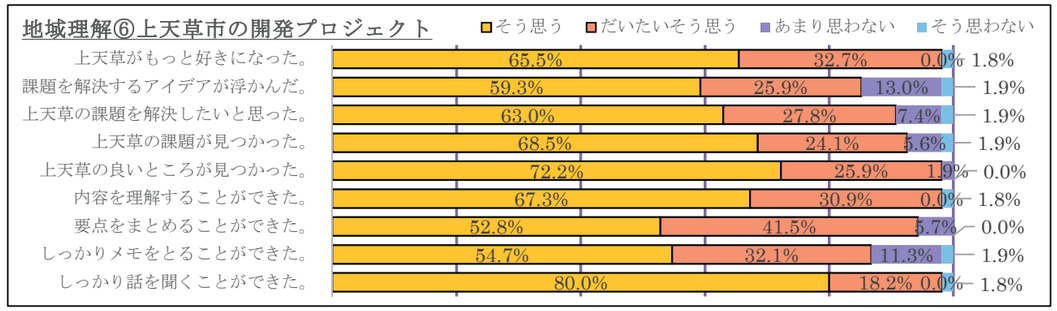
⑥「上天草の開発プロジェクト」

期　日：令和元年１０月１０日（木）１４：０５～１５：３０

場　所：千巌山展望台およびその周辺、ミオ・カミーノ天草

講　師：上天草市開発プロジェクト推進課　課長補佐　友添　真也　氏

主事　松本　大紀　氏



（２）先進出前講座

大学や研究機関等から外部講師を招聘し講義形式を中心に実施。地域課題を解決するのに必要な知識・技能を習得する事を目的とする。また、聞いて、メモを取り、要点をまとめる能力の向上も目指す。添付されているグラフは、各講座終了後に実施した自己評価の集計。

①「ビジネスプランを創ろう！」

期　日：令和元年７月４日（木）１３：５０～１５：４０

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：日本政策金融公庫　熊本創業支援センター　所長　尾﨑　真哉　氏

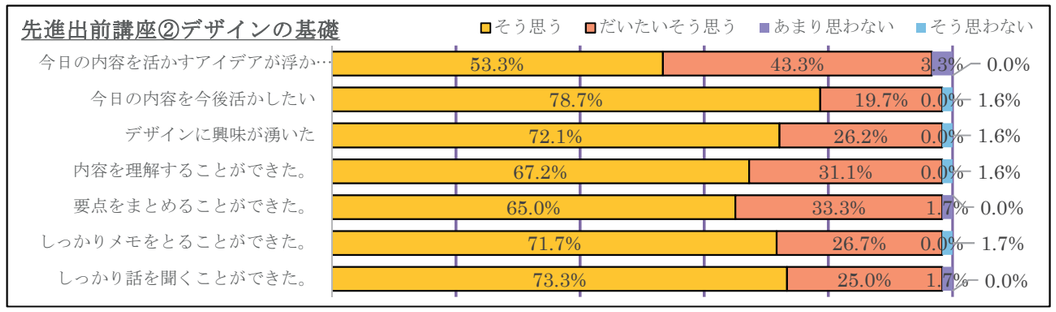
上席所長代理　石﨑　勇　氏

②「デザインの基礎」

期　日：令和元年１０月２４日（木）１４：５０～１５：４０

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：崇城大学　芸術学部　デザイン学科　教授　岩上　孝二　氏



③「地方創生～地域おこし協力隊の取組～」

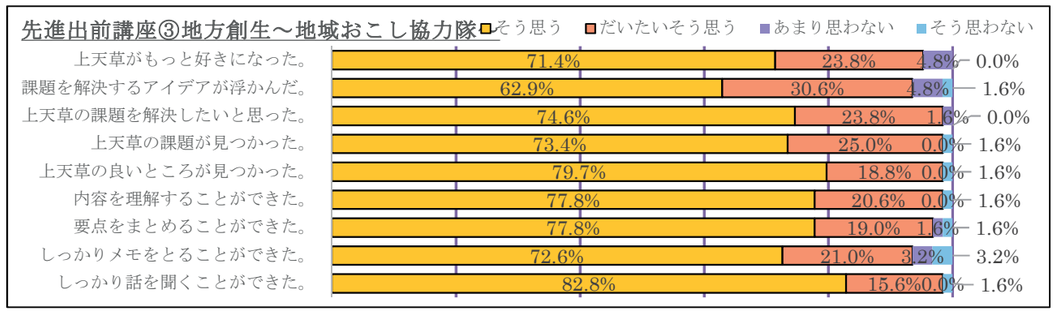
期　日：令和元年１１月１４日（木）１４：５０～１５：４０

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：上天草市地域おこし協力隊

維和島振興協議会（いわらぼ）　会長　星野　真理　氏

元田農業株式会社　代表取締役　元田　有祈　氏

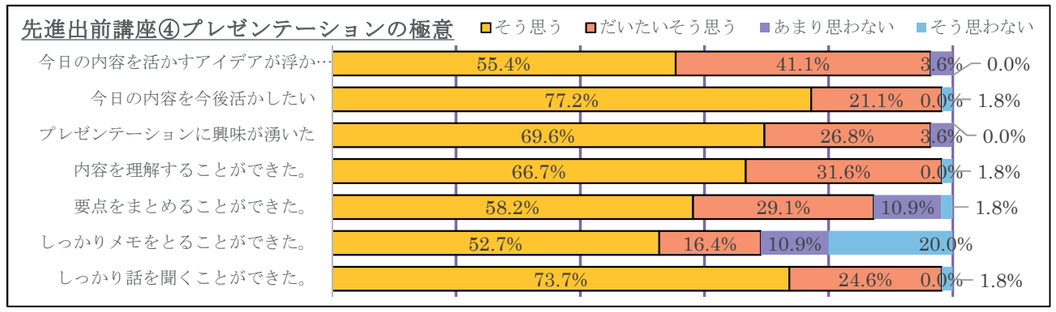


④プレゼンテーション講演会「プレゼンテーションの極意」

期　日：令和元年１２月３日（火）１０：３０～１２：２０

場　所：天草高校体育館（天草高校取組と合同で実施）

講　師：日本マイクロソフト(株)　エバンジェリスト・業務執行役員　西脇　質哲　氏



⑤「映画でつなぐ地域の魅力」

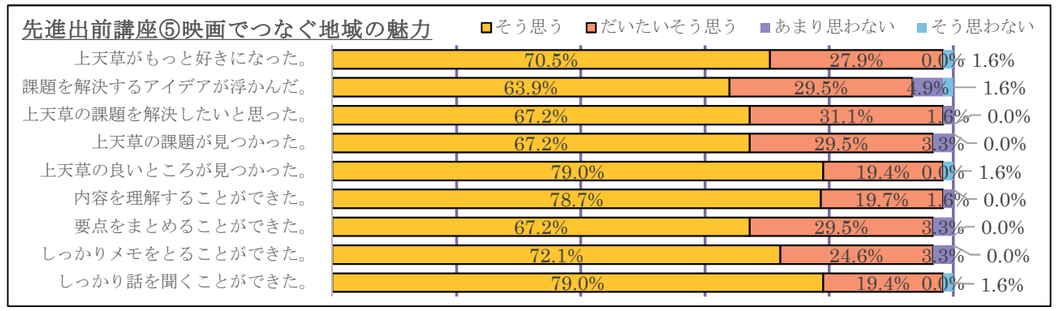
期　日：令和元年１２月１２日（木）１４：５０～１５：４０

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：映画監督（and pictures）　榊原　有佑　氏

映画プロデューサー　杉浦　　青　氏

ジャパン・フィルムコミッション　副理事長　　小山　真一　氏



（３）プロジェクト学習

地域課題解決のためビジネスプランを考案する探究活動を行った。９月には日本政策金融公庫主催第７回高校生ビジネスプラン・グランプリに全員（６７人１７班）が応募した。９月以降もビジネスプランの考案または修正を繰返すことで、地域と協働した探究的な学びを実践することが目的。特に１年次は「チャレンジしてみる！」を合い言葉に、ＰＤＣＡサイクルで調査研究の手法の習得を図る。

応募作品一覧

班	タイトル
1	海上アスレチック　SASUKE 風タイムアタック
2	廃校さばいばる
3	上天草スタンプラリー
4	室内アスレチックパーク【冷暖房付き】
5	いざ、集合。ごみくん
6	ＮＭ　ｅｎｊｏｙ
7	Let’s get together in kamiamakusa
8	大先輩と後輩の交流サービス
9	週末オープン憩いの場

班	タイトル
10	地域を支える共有アプリ
11	かみネマ
12	農業体験ツアー
13	高校生が上天草ばＰＲするばい
14	いい香りの消臭剤
15	けものカフェ
16	使ってたまる上ｐａｙ
17	ひと夏の思い出作り

（４）フィールドワーク

プロジェクト学習が単なる「調べ学習」で終わらぬよう現場での活動を行うことが目的。同時にアポイントメントの取り方や調査研究の手法の習得を図る。生徒の要望に合わせ、交通手段も確保できるようになっている。今年度の１年生上天草プロジェクトⅠは、地域理解講座等で時間的な余裕がなく活発なフィールドワークができなかったが、２年生の上天草プロジェクトⅡでは、活発なフィールドワークができる事を期待している。

実績は以下のとおり。

期日	内容	テーマ	活動場所	参加数	協力者等
9/19	レクチャー	商品開発と販売	藍のあまくさ村	4	藍の村観光(株)
9/19	レクチャー	公共交通とまちづくり	上天草市役所	4	市企画政策課
9/19	レクチャー	特産品とブランド	上天草市役所	3	市産業政策課
1/6	現地視察	地域と映画	湯島	4	
1/26	市場調査	映画に関する意識調査	アロマ （上天草映画祭会場）	4	上天草映画祭実行委員会

２　特別講演会

文部科学省指定「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（魅力化型）」の取組を力強く推進するために先進事例を学ぶ。また、本校における本事業の関係者が一堂に会し、情報交換することでさらなる取組の推進に資することを目的に開催。

①期　日：令和元年１２月１９日（木）１４：００　～　１６：００

②会　場：大矢野自然休養村管理センター　大会議室

③参加者：上天草高校全校生徒２０３名および教職員

県内学校関係者１５名、県内自治体職員等３名、大学生４名

上天草市内事業所３名

④内　容：テーマ「自分と地域の未来をつくる学び」

ⅰ　講演

講　　師　：(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム　　奥田　麻依子　氏

ⅱ　パネルディスカッション

パネラー：(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム　　奥田　麻依子　氏

上天草市長　　堀江　隆臣　氏

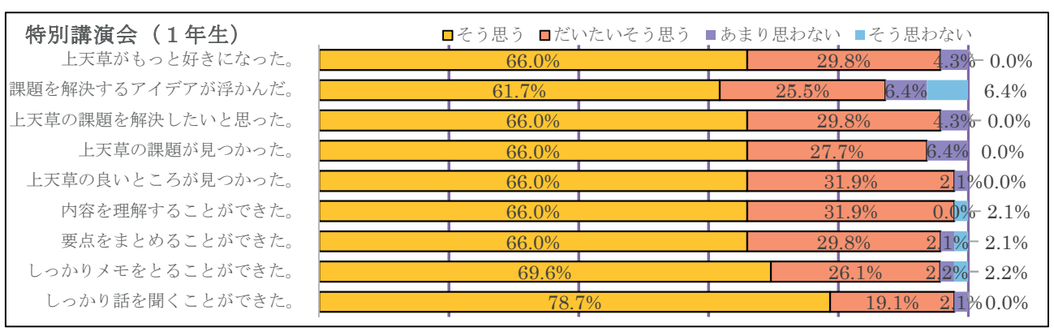
維和島振興協議会会長　　星野　真理　氏

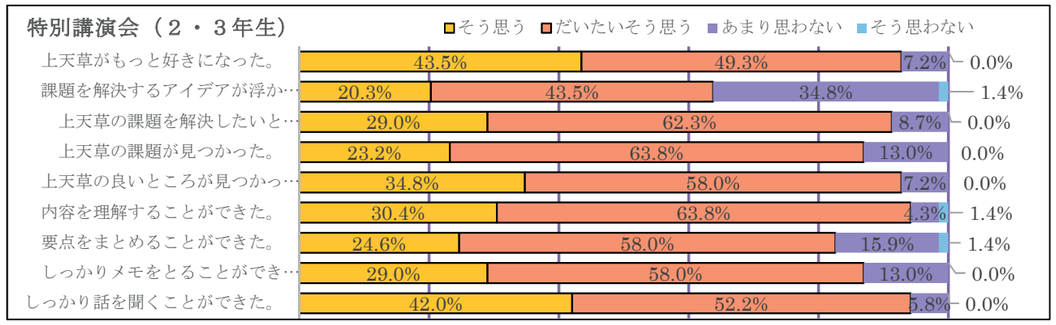
上天草高校同窓会副会長、湯楽亭代表取締役　　嶋田　昭仁　氏

上天草高校生徒会会長　　山口　太輝

司　　会　：上天草高校カリキュラム開発等専門家　　元田　有祈　氏

（生徒自己評価集計結果）

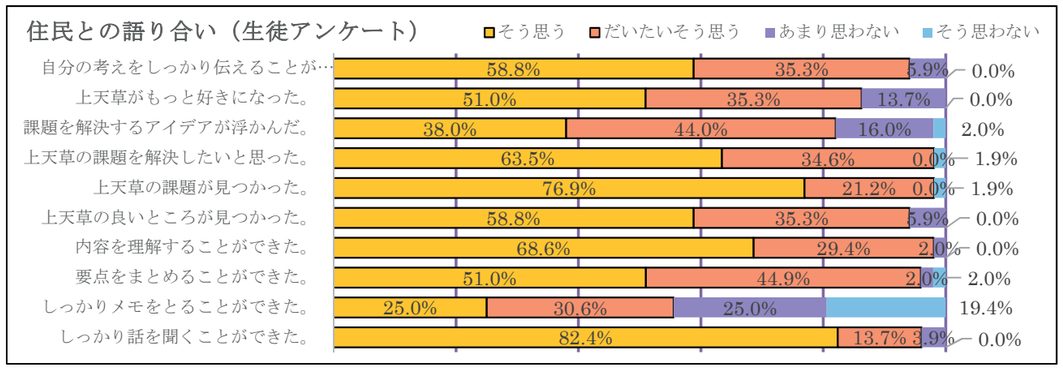


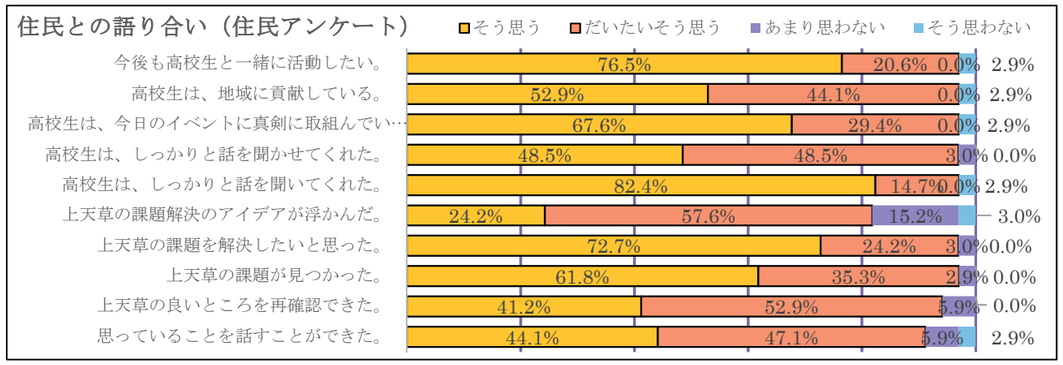


３　地域住民との語り合い

上天草プロジェクトＩの生徒自身が地域の課題に気づき、その解決策を探究するため活動の一貫として実施。地域の方たちと語り合う中で、地域の課題や地域の想いを汲み取る事およびその能力の育成を目的とする。市役所、農協、漁協、福祉関係者、観光協会、商工会、ロータリークラブ、近隣住民、さらには大学生や地域おこし協力隊にも呼びかけ、高校生と一緒に「上天草の困り事」をテーマに語り合いを実施した。

①期　日：令和元年８月２７日（火）９：３０　～　１１：００
②会　場：上天草高校図書館棟（視聴覚室、学習室１、学習室２）
③参加者：上天草高校１年生６７名　職員１１名（校長、教頭、１学年担当）、近隣住民４名、上天草市区長会連合会９名、福祉施設職員３名、ＪＡ３名、ロータリークラブ３名、大学関係者４名、市議会議員１名、市役所職員４名、地域おこし協力隊１名、学校運営協議会委員等３名
④内　容：「上天草の困り事」をテーマに１１班に分かれディスカッション・発表
⑤ファシリテーター　(株)地域のチカラ　代表取締役　北岡　敦広　氏
（→本校学校運営委員会委員、上天草市中学校コーディネーター）
本校カリキュラム開発等専門家　元田　有祈　氏





４　成果の発表

生徒自身が、自らの探究活動を振り返るとともにプレゼンテーション能力の向上を目的に、生徒の探究活動の成果を発表する機会を多く用意した。

（１）中間発表　～ポスター展示～

中間発表としてポスター展示を行った。研究成果を紙面にまとめることで整理し、将来のポスターセッションにつなげる狙いがある。

①期　日：令和元年１１月９日（土）１０：００　～　１４：００
②会　場：松島総合センターアロマ　メインアリーナ
（本校販売実習「上天草バザール」の会場での展示）
③内　容：・自ら創ったビジネスプランについてまとめたポスター
・Ａ０カラーで作成し、説明がなくても伝わる内容
・先進出前講座「デザインの基礎」で得た知識を活用
・１年生全員１７班が展示

（２）研究成果発表会　～上天草の虎～

事業の説明の後、１年間の探究活動の成果としてビジネスプランのプレゼンテーションを実施。１年生全員１７班が発表した。３分間のプレゼンテーションとその後３分間審査員との質疑応答でプレゼンテーション能力の向上を目指す。

①期　日：令和２年２月５日（水）１３：００　～　１６：００
②会　場：松島総合センターアロマ　アロマホール
③参加者：本校生徒１・２年生および職員
銀行関係者４名、大学関係者２、介護施設関係者３名、商工会１名
地元経営者１名、上天草市地域おこし協力隊２名、上天草市役所職員３名
地元小中学校９名、県内高等学校１４名、県教育委員会２名
県外団体４名、県外高等学校４名
④審査員：日本政策金融公庫国民生活事業熊本創業支援センター所長　尾﨑　真哉　氏
株式会社　肥後銀行　大矢野支店　支店長　米本　明弘　氏
株式会社アマーサ　代表取締役　四方田　徹　氏
維和島振興協議会（いわらぼ）　会長　星野　真理　氏

発表内容

タイトル	テーマ
よい香りの消臭剤	特産品を使った商品開発
農業体験ツアー	農業後継者不足問題
ひと夏の思い出作り	観光アクティビティ開発
廃校サバイバル	既存施設の再利用
大先輩と後輩の交流サービス	高齢者との交流
上天草ジビエプロジェクト	鳥獣被害の解決
けものカフェ	観光客増加への取り組み
「天草名物」を開発しよう	特産品を使った商品開発
週末オープン憩いの場	観光・娯楽施設の開発

タイトル	テーマ
高校生が上天草をPRすっぱい	観光PR活動
室内アスレチックパーク	観光アクティビティ開発
いざ集合　ごみくん	ゴミ収集問題
地域を支える共有アプリ	地域住民支援アプリ開発
使ってたまる上Pay	ICカード還元システム
上天草スタンプラリー	観光イベント企画
かみネマ	娯楽施設の開発
イルカで地域活性化	地域魅力情報発信企画

（3）ＫＳＨ（熊本県スーパーハイスクール）生徒研究発表会への参加

県内外の探究活動に取組む生徒が一堂に会し、それぞれの研究状況についての情報・意見交換を行い、生徒が自身の研究に対する理解を深め、今後の研究活動をより充実させる機会とする事を目的として実施。ＫＳＨ（熊本県スーパーハイスクール）とは、文部科学省または県の指定を受け、各分野で先進的な研究を進めている県立学校１３校のこと。

①期　日：令和元年１２月１日（日）１１：００　～　１６：００
②会　場：崇城大学「ＳｏＬＡ」
③参加者：本校１年生１２名（３班）
④内　容：ポスターセッション
・テーマ「廃校サバイバル」
「地域を支える共有アプリ」
「農業体験ツアー」
・各校参加者が発表者・見学者に別れポスターセッションを実施

（4）上天草市主催「上天草市地域ささえあい住民フォーラム」への参加

上天草市の各機関・団体と住民の協働や住民同士の助け合い活動の一層の推進を図ることを目的とした住民フォーラムに参加。「上天草市内の取組みについて」のパネルディスカッションにパネラーとして参加し、上天草プロジェクトの取組を発表した。

①期　日：令和元年１２月１日（日）１３：００　～　１６：００
②会　場：松島総合センターアロマ　アロマホール
③参加者：本校１年生３名

5　都市（大阪）での調査および販売実習

上天草地域を客観視し、地域の現状の考察や新たな方向性を見出す機会とする事を目的として実施した。また、上天草同様、日本各地域に存在する島の取組を知り、地元活性化のヒントを得る機会とする。

①期　日：令和元年１２月２０日（金）～　２１日（土）
②参加者：本校１年生５名　（応募２３名から選出）
③内　容：
ⅰ　「島の宝プレミアムマルシェ in 大阪駅」で販売およびパンフレット配布
ⅱ　熊本の食材を取り扱う飲食店「熊本　馬源」での調査
ⅲ　上天草アンテナショップ「産直野菜ぷちトマト」（池田市）での調査　など

6　エキスパート生徒派遣

上天草市では小中高一貫の起業家教育を推進しており、中学生もビジネスプランの作成などに取組んでいる。今年度は上天草市立大矢野中学校と連携した取組を行った。

（1）大矢野中学校生徒考案のビジネスプランを知る

大矢野中学校の生徒もビジネスプランの作成に取組んでおり、その内容を中学生がプレゼン。高校生は第２回の取組時、中学生にアドバイスをするための下準備をさせてもらった。

①期　日：令和元年１１月７日（木）１６：３０　～　１７：３０
②会　場：上天草市立大矢野中学校
③参加者：本校１年生１０名、大矢野中学校２年生７名
④ファシリテーター：(株)地域のチカラ　代表取締役　北岡　敦広　氏
（→　本校学校運営委員会委員、上天草市中学校コーディネーター）

（2）本校生徒と大矢野中学校生徒のワークショップ

本校の販売実習「上天草バザール」と平行してワークショップを実施した。成果物は販売実習会場のイベントステージで発表した。

①期　日：令和元年１１月９日（土）１０：００　～　１３：００
②会　場：松島総合センターアロマ（視聴覚室およびメインアリーナ）
③参加者：本校１年生１０名、大矢野中学校２年生１１名
④ファシリテーター：(株)地域のチカラ　代表取締役　北岡　敦広　氏
⑤内　容：
ⅰワークショップ
テーマ①「中学生のビジネスプランを練り上げよう！」
テーマ②「理想の上天草像を考えよう！」
ⅱ発表
販売実習会場であるメインアリーナのイベントステージで班ごとに発表

（3）本校生徒考案のビジネスプランについてディスカッション

第３回は本校生徒考案のビジネスプランに対してプレゼンし、質問や意見をもらいながらディスカッションする取組。中学生や中学校の先生に詰め寄られる場面もあり、自らのプランの弱点に気づくことができた。

①期　日：令和２年１月１４日（火）１７：３０　～　１８：３０
②会　場：上天草市立大矢野中学校
③参加者：本校１年生１１名、大矢野中学校２年生９名
④ファシリテーター：(株)地域のチカラ　代表取締役　北岡　敦広　氏
（→　本校学校運営委員会委員、上天草市中学校コーディネーター）

7　ＳＣＨ（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）シンポジウムへの参加

東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科主催ＳＣＨ（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）シンポジウムに生徒および職員が参加。

①期　日：令和２年２月２２日（土）～　２５日（火）

②参加者：本校１年生２名

8　「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの推進

学校設定科目はもちろんのこと、すべての学科・教科科目において教科横断的に共通のテーマを設定し、授業改善の大きな柱として、「聞く」「話す」「表現する」等、どの教科でも必要になる力を、地域を巻き込みながら伸ばしていく取組で、今年度はシステム構築と職員への周知が中心であった。

（１）教科毎の年間指導計画の作成

育てる地域人材像を職員間で共有し、「聞く」「話す」「表現する」という３つの項目を伸ばすための年間指導計画を教科毎に暫定的に作成した。この年間指導計画は、研究開発を進める中でアップグレードされていく予定である。

（例：理科の年間指導計画）

「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト　年間指導計画

（　　理　　）科

	1年次	2年次	3年次
年間目標	「聞く」：ちゃんと聞くことができるようになる。 「話す」：自分の意見を話すことができるようになる。 「表現する」：科学的根拠を示すことができるようになる。	「聞く」：ポイントを押さえて聞くことができるようになる。 「話す」：科学的根拠を基に自分の意見を述べられるようになる。 「表現する」：科学的根拠を示しながら、相手に伝えることができるようになる。	「聞く」：ポイントを押さえて聞き、既習事項や日常生活と関連付けられるようになる。 「話す」：科学的根拠を基に分かりやすく整理して自分の意見を述べられるようになる。 「表現する」：科学的根拠を効果的に示しながら相手を納得させられるようになる。
「聞く」	【場面の設定と目標】 ・授業を聞いて、授業用プリントを完成できるように指導する。また、重要な部分についてはマーカーやアンダーラインなどを入れられるように指導する。	【場面の設定と目標】 ・グループ内で発表する場面の設定を行い、メモを取ったり、適切に相互評価したりすることができるように指導する。	【場面の設定と目標】 ・グループ内やクラス内で発表する際、メモを取ったり、適切に相互評価したり、質問することができるように指導する。
「話す」	【場面の設定と目標】 ・教師の発問に対して自分の意見を述べられるように指導する。 ・グループ内で自分の意見を述べられるように指導する。	【場面の設定と目標】 ・グループ内で話し合ったり、学習内容を振り返ったりする際に、教科書の内容等を参考にしながら、科学的根拠に基づいて、自分の意見を述べることができるように指導する。	【場面の設定と目標】 ・グループ内やクラス内で発表したり、学習内容を振り返ったりする際、科学的根拠に基づいた上で、既習事項や日常生活と関連付けて、整理して自分の意見が述べられるよう指導する。
「表現する」	【場面の設定と目標】 ・実験等を行う際に、考察をする場面を設定し、考察の中に科学的根拠を示すことができるように指導する。	【場面の設定と目標】 ・KP や学習内容のまとめ等を作成する際、教科書の内容等を参考にしながら、科学的根拠に基づいて作成することができる。	【場面の設定と目標】 ・KP や学習内容のまとめ等を作成する際、教科書の内容や既習事項、日常生活と関連付けながら、科学的根拠に基づき作成し、質問に適切に答えることができるように指導する。

（２）ルーブリック評価表の作成

「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトでの生徒の成長を評価するためにルーブリック表（案）を作成し、校内の研究推進委員会とコンソーシアム委員会に提示し、修正を加えた。次年度から年２回の自己評価を実施し、成長の「見える化」を目指す。

高校卒業までに身につけさせたい力を段階的に記述している。

「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト　ルーブリック評価表

		基本・１	応用・２	発展・３
聞く	聞（聴）く力	他人の話を遮ることなく、聞くことができる。	他人の話を要点を押さえながら聞くことができる。	他人の話を要点を押さえながら聞くことができ、その文脈から相手の真意を理解できる。
聞く	質問する力	話の内容で「わからない部分」に気づき、「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問に思うことができる。	話の内容で「わからない部分」に気づき、「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問に思い、質問することができる。	話の内容で「わからない部分」に気づき、「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問に思い、質問し、自らの理解へ繋げることができる。
聞く	メモする力	他人の話を聞き、メモすることができる。	他人の話を聞き、要点を押さえたメモすることができる。	他人の話を聞き、要点を押さえ関連付けながらメモすることができる。
聞く	態度	話を聞くとき、聞こうとする態度を示すことができる。	話を聞くとき、うなづいたり、相槌を打ったりするなどジェスチャーを加えながら聞くことで相手が話しやすい環境を作ることができる。	話を聞くとき、状況に応じてジェスチャーを加えながら聞くことで、相手が話しやすい環境を作ることができるだけでなく、話し手の問いに反応することで、話を活性化させようとする態度を示すことができる。
話す	論理的説明	自分の意見や考えを整理して、論理的に説明することができる。	自分の意見や考えを整理して、根拠を示しながら論理的に説明することができる。	自分の意見や考えを整理して、客観性の高い根拠を示しながら論理的に相手を説得することができる。
話す	聞き手への配慮	相手や場面に応じて、相手に伝えることができる。	相手や場面に応じて、相手に伝える内容を過不足なく伝えることができる。	相手や場面に応じて、相手に伝える内容を分かりやすく過不足なく伝えることができる。
話す	魅力的な話し方	聞き手がわかりやすいように、誠意ある話し方ができる。	聞き手がわかりやすいように、聞き取りやすい音声（声量、速さ、声の調子など）や言葉遣いを用いた話し方ができる。	聞き手がわかりやすいように、聞き取りやすい声（声量、速さ、声の調子など）や言葉遣いを用いた上で、大事なところを強調したり、間の取り方を工夫したりして、相手を惹きつける話し方ができる。
話す	主体性	自分が発言しなければならない状況において、考えや想いを発言をすることができる。	発言しなければならない状況だけでなく、自ら積極的かつ適切に発言することができる。	積極的かつ適切に発言することができると同時に、参加者の発言も引き出すことができる。
表現する	情報収集力	自分の考えを表現するために必要な情報を収集する方法を知っている。	自分の考えを表現するために必要な情報を収集することができる。	様々な手段を用いて、自分の考えを表現するために必要な情報を収集することができる。
表現する	分析力	収集したデータを適切な方法で処理することができる。	収集したデータを適切な方法で処理し、自らの分析と考察が為された情報にすることができる。	収集したデータを適切な方法で処理し、多面的な分析がなされ、深い考察が加えられている情報にし、その情報を活用することができる。
表現する	構成力	一つ一つの要素を組み立て、全体として一つのものとしてまとめることができる。	納得できる要旨であり、理解できるように構成されたものをつくることができる。	一貫性のある説明がなされ、納得できる要旨であり、理解できるように構成されたものをつくることができる。
表現する	非言語コミュニケーション	表情や身振り手振りなどのジェスチャーを使って表現することができる。	相手や場面に応じて、表情や身振り手振りなどのジェスチャーを使って表現することができる。	相手を惹きつけるために、相手や場面に応じて、表情や身振り手振りなどのジェスチャーを効果的に使って表現することができる。

（3）アイデアシートの収集および共有

授業改善や科目横断の取組について、まずは授業中のちょっとした気づきや工夫を集め、全職員で共有する仕組みづくりを行った。各個人が作成したアイデアシートは、全職員が共有するフォルダに集められ、いつでも利用できるようになっている。

(①国語科のアイデアシートの一例)

【アイデアまたは工夫】

論理的に構成されている文章（印刷されたもの）を意味段落や形式段落を基準にしてランダムに切断し、その切断した短冊を筋が通るように班で協議させて整序させる。

【具体的な用途】

1．授業のどの場面で使うか

単元の最初の時間（初見の文章）

2．使用するもの

意味段落や形式段落を基準にしてランダムに切断した印刷物

3．「聞く」「話す」「表現する」のうちどの能力の向上が期待できるか

「聞く」「話す」「表現する」の能力を期待する。

他者を納得させるためには文章中にある根拠を示して協議する必要があるので、論理的思考力や表現力の向上が期待できる。加えてメタ（抽象）思考やアナロジー（分析し類推する）思考の向上を期待する。

4．うまく機能させるための留意点

文法事項としては接続詞や助詞について、表現においては類義表現またはその言い換え表現あるいは対義対立表現などについて、構成面においては因果関係や、抽象的部分とそれに関連する具体例の部分などについて、これらのことを根拠にして協議するように指導する。

(②理科のアイデアシートの一例)

【アイデアまたは工夫】

教科書の図やグラフ、表を言語化させる

【具体的な用途】

1．授業のどの場面で使うか

教科書に図や表が出てきたとき。

2．使用するもの

解答用紙（B4 用紙（裏紙 OK）、ペン、マグネットなど）

3．「聞く」「話す」「表現する」のうちどの能力の向上が期待できるか

「聞く」…他者の意見に耳を傾ける態度の向上が期待できる。

「話す」…図やグラフ、表から読み取った情報を他者に伝わるように言語化する力が身につくことが期待できる。

4．うまく機能させるための留意点

・間違ってもいいので、答えを待たず書いてみることを促す。ペアやグループで回答させ、黒板に掲示させると強制力が増し、回答のシェアもしやすい。

（4）授業実践シートの収集および共有

年間指導計画およびアイデアシートを基に、各職員が授業の実践に取組んだ内容を授業実践シートとして収集し、アイデアシートと同様の方法で共有している。

次年度以降は、教科の垣根を越えて協力した取組を推進していきたい。

「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト授業実践シート

教科＿国　語＿氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

授業実践日：令和元年１１月７日

授業科目	国語表現
対象生徒	① 所属　３年福祉科介護福祉類型、３年総合選択 ② 人数　５名、６名（合計１１名） ③ 傾向　真面目に取組むクラスであるが、表現力には乏しい生徒が多い。
本時の内容	① タイトル　　働く人にインタビュー ② スタイル　□講義　□グループワーク　□実験　□実習　■（　発表　） ④ ICT　　■タブレット　□実物投影機　□その他（　　） ⑤ 単元の構成 （1） 事前準備（相手を決め、依頼する。質問項目を吟味する等）を行う。 （2） インタビューする。 （3） パワーポイントにまとめ、完成した作品をインタビュー相手に見てもらう。 （4） 発表する。（本時）
本時の 注目ポイント	① 工夫のポイント ◎インタビュー相手へのアポ取りから実際のインタビュー、まとめたパワーポイントを見てもらうまでを生徒自身が行う。傾聴の姿勢はもちろん、聞き取った話をパワーポイントにまとめることで情報整理を行い、読みやすく編集できるよう指導する。 ②工夫することで期待できる効果 ・「聞く」（傾聴、書き取り）・・・インタビューをとおして、相手の言いたいことを的確に捉える力を養う。また、ポイントを絞ってメモをとる力を養う。 ・「話す」（言語活動）・・・インタビューをとおして、スムーズに会話のキャッチボールができる力を養う。 ・「表現する」（非言語活動）・・・インタビューメモをパワーポイントにまとめ、それを用いて発表することで、聞き手に伝わりやすい表現ができる力を養う。
評価の基準	A：インタビュー内容をパワーポイントに効果的にまとめ、聞き手に伝わりやすい発表ができる。 B：インタビュー内容をパワーポイントにまとめ、発表することができる。 C：インタビュー内容をパワーポイントにまとめたが、伝わりにくい発表である。 D：インタビュー内容をうまくパワーポイントにまとめることができず、内容が伝わらない。
「聞く」「話す」「表現する」との関連	聞く度　◆◆◇◇◇　話す度　◆◆◆◇◇　表現する度　◆◆◆◇◇
生徒の振り返り	・「聞く」（傾聴、書き取り）・・・傾聴することができたか。また、ポイントを絞ってメモをとることができたか。 ・「話す」（言語活動）・・・スムーズに会話のキャッチボールができたか。 ・「表現する」（非言語活動）・・・聞き手に伝わりやすい表現ができたか。
教師の振り返り	インタビューもパワーポイントにまとめることも初めて行ったが、こちらが思っている以上に生徒たちは活動していた。事前準備の際に、一連の活動のイメージを膨らませたうえで実際に取組むことが大切だと改めて感じた。

平成３１年度教育課程表

熊本県立上天草高等学校　　全日制

学科			普通科										
入学年度			平成３１年度入学										
平成３１年度現在学年○印			(Ⅰ)		Ⅱ			Ⅲ			計		
類型（コース）			普通	特進	普通	特進		普通	特進		普通	特進	
教科	科目	標準単位				文系	理系		文系	理系		文系	理系
国語	国語総合	4	5	5							5	5	5
	国語表現	*3*						*★2*			*0,2*		
	現代文B	4			2	2	2	3	3	2	5	5	4
	古典B	4			2	3	2	3	3	3	5	6	5
地理歴史	世界史A	2			2	3	3				2	3	3
	世界史B	4							4	4		0,4	0,4
	日本史A	2				3	3	3			3	0,3	0,3
	日本史B	4							4	4		0,4	0,4
	地理A	2			2	3	3				2	0,3	0,3
	地理B	4							4	4		0,4	0,4
公民	現代社会	2	2	2							2	2	2
	倫理	*2*			*●2*						*0,2*		
	政治・経済	2						3	3		3	3	
数学	数学Ⅰ	3	3	3							3	3	3
	数学Ⅱ	4			4	4	3	4	3		8	7	3
	数学Ⅲ	5					1			6			7
	数学A	2	2	2							2	2	2
	数学B	2				2	2		2			4	2
理科	科学と人間生活	2											
	物理基礎	2				2	2	3			3	2	2
	物理	4								5			0,5
	化学基礎	2	2	3							2	3	3
	化学	4					2			3			5
	生物基礎	2			3	2	2				3	2	2
	生物	4							4	5		4	0,5
保健体育	体育	7～8	3	3	3	**2**	**2**	2	2	2	8	7	7
	保健	2	1	1	1	1	1				2	2	2
芸術	音楽Ⅰ	2	2	2							0,2	0,2	0,2
	音楽Ⅱ	2			2						0,2		
	音楽Ⅲ	2						2			0,2		
	美術Ⅰ	2	2	2							0,2	0,2	0,2
	美術Ⅱ	2			2						0,2		
	美術Ⅲ	2						2			0,2		
	書道Ⅰ	2	2	2							0,2	0,2	0,2
	書道Ⅱ	2			2						0,2		
	書道Ⅲ	2						2			0,2		
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	3	3							3	3	3
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3	3							3	3	3
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			4	4	4				4	4	4
	コミュニケーション英語Ⅲ	4						4	5	4	4	5	4
	英語表現Ⅰ	2			*●2*	2	1		2	2	*0,2*	4	3
家庭	家庭基礎	2	2	2							2	2	2
情報	社会と情報	2	2	2							2	2	2
各学科共通教科計			30	31	*25,27*	30	30	*27,29*	31	31	*82,84,86*	92	92
商業	ビジネス基礎	2～4			3						3		
	広告と販売促進	*2～4*						*★2*			*0,2*		
	ビジネス情報	*2～6*						*★2*			*0,2*		
	プログラミング	*2～6*			*●2*						*0,2*		
家庭	*子どもの発達と保育*	*2～6*			*●2*						*0,2*		
	生活と福祉	*2～6*						*★2*			*0,2*		
福祉	*コミュニケーション技術*	*2～4*			*●2*						*0,2*		
専門教科計					*3,5*			*0,2*			*3,5,7*		
学校設定	上天草プロジェクトⅠ	1	1	1							1	1	1
	上天草プロジェクトⅡ	1			1	1	1				1	1	1
	上天草プロジェクトⅢ	1						1	1	1	1	1	1
	地域起業研究	1			1	1	1				1	1	1
	地域イノベーション研究	1						1			1		
特活	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3
合計			32	33	33	33	33	32	33	33	97	99	99

※普通クラス２年次の●2、３年次の★2からそれぞれ１科目ずつを選択
　ただし、普通クラス２年次の「英語表現Ⅰ」、「子どもの発達と保育」と３年次の「生活と福祉」は、普通科および情報会計科の２学科の生徒の選択科目とし、普通クラス２年次の「プログラミング」と３年次の「ビジネス情報」は、普通科および福祉科の２学科の生徒の選択科目とする。
※１年次、４月から９月まで「コミュニケーション英語基礎」を、１０月から３月まで「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修する。
※２学年理系コースの数学Ⅲの学習は数学Ⅱの範囲の学習を終了した後に行う。
※総合的な探究の時間は、学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」、「上天草プロジェクトⅡ」、「上天草プロジェクトⅢ」で代替する。

平成３１年度教育課程表

熊本県立上天草高等学校　　全日制

学科			情報会計科			
入学年度			平成３１年度入学			
平成３１年度現在学年○印			(Ⅰ)	Ⅱ	Ⅲ	計
教科	科目	標準単位				
国語	国語総合	4	4			4
	国語表現	*3*			*★2*	*0,2*
	現代文B	4		3	3	6
地理歴史	世界史A	2		2		2
	日本史A	2			2	2
公民	現代社会	2	2			2
	倫理	*2*		*●2*		*0,2*
数学	数学Ⅰ	3	3			3
	数学Ⅱ	4			4	4
	数学A	2		3		3
理科	科学と人間生活	2		2		2
	生物基礎	2			2	2
保健体育	体育	7～8	3	3	2	8
	保健	2	1	1		2
芸術	音楽Ⅰ	2	2			0,2
	美術Ⅰ	2	2			0,2
	書道Ⅰ	2	2			0,2
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	3			3
	コミュニケーション英語Ⅰ	3		3		3
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			4	4
	英語表現Ⅰ	*2*		*●2*		*0,2*
家庭	家庭基礎	2	2			2
情報	社会と情報	2				0
各学科共通教科計			20	*17,19*	*17,19*	*54,56,58*
家庭	*子どもの発達と保育*	*2～6*		*●2*		*0,2*
	生活と福祉	*2～6*			*★2*	*0,2*
商業	ビジネス基礎	2～4	2			2
	課題研究	2～6			4	4
	総合実践	2～4			4	4
	広告と販売促進	*2～4*			*★2*	*0,2*
	経済活動と法	2～4				
	簿記	2～6	5			5
	財務会計Ⅰ	2～4		4		4
	財務会計Ⅱ	2～4			4	0,4
	原価計算	2～4		3		3
	情報処理	2～6	4			4
	ビジネス情報	2～6		5		5
	プログラミング	2～6			4	0,4
福祉	*コミュニケーション技術*	*2～4*		*●2*		*0,2*
専門教科計			11	*12,14*	*12,14*	*35,37,39*
学校設定	上天草プロジェクトⅠ	1	1			1
	上天草プロジェクトⅡ	1		1		1
	上天草プロジェクトⅢ	1			1	1
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3
合計			33	33	33	99

※各学科共通教科「情報」科目「社会と情報」は、専門教科「商業」科目「情報処理」で代替
※２年次の●2、３年次の★2からそれぞれ１科目ずつを選択
　ただし、２年次の「英語表現Ⅰ」、「子どもの発達と保育」と３年次の「生活と福祉」は、普通科および情報会計科の２学科の生徒の選択科目とする。
※総合的な探究の時間は、学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」、「上天草プロジェクトⅡ」「上天草プロジェクトⅢ」で代替する。

平成３１年度教育課程表

熊本県立上天草高等学校　全日制

学科		福祉科					
入学年度		平成３１年度入学					
平成３１年度現在学年○印		Ⅰ	Ⅱ		Ⅲ	計	
類型（コース）		全	介護福祉	地域福祉	介護福祉	地域福祉	介護福祉	地域福祉
教科	科目	標準単位						
国語	国語総合	4	3	1	1		4	4
	国語表現	***3***				★2		***0, 2***
	現代文B	4		2	2	3	4	5
地理歴史	世界史A	2		2	2		2	2
	日本史A	2				2	2	2
公民	現代社会	2	2				2	2
	倫理	***2***			●2			***0, 2***
数学	数学Ⅰ	3	2	2	2		4	4
	数学Ⅱ	4				4		4
	数学A	2			2		2	
理科	科学と人間生活	2		2			2	2
	生物基礎	2			2	2	2	2
保健体育	体育	7～8	3	3	2	2	8	8
	保健	2	1	1			2	2
芸術	音楽Ⅰ	2	2┐				0, 2	0, 2
	美術Ⅰ	2	2┤				0, 2	0, 2
	書道Ⅰ	2	2┘				0, 2	0, 2
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	3				3	3
	コミュニケーション英語Ⅰ	3		2	2	2	4	4
	英語表現Ⅰ	2			2	2		4
家庭	家庭総合	4	2	2	2		4	4
情報	社会と情報	2					0	0
各学科共通教科計			18	17	12	12	47	54, 56, 58
家庭	子どもの発達と保育	2～6				4		4
	生活と福祉	2～6						5
	フードデザイン	2～10		5		4		4
	消費生活	2～4				2		2
商業	***広告と販売促進***	***2～4***				★2		***0, 2***
	ビジネス情報	***2～6***				★2		***0, 2***
	プログラミング	***2～6***		●2				***0, 2***
福祉	社会福祉基礎	2～6	2	2			4	4
	介護福祉基礎	2～6	2		3		5	2
	コミュニケーション技術	***2～4***		●2	2		2	***0, 2***
	生活支援技術	2～12	3	3	4		10	3
	介護過程	2～6		2	2		4	
	介護総合演習	2～6	1	1	1		3	3
	介護実習	2～16	2 (2)	3	4 (1)		8 (5)	2 (2)
	こころとからだの理解	2～12	2	2	3		8	3
	福祉情報活用	2～4	2	2			2	4
専門教科計			13 (2)	14 (2)	19 (1)		46 (5)	***36, 37, 39 (2)***
学校設定	**上天草プロジェクトⅠ**	1	1				1	1
	上天草プロジェクトⅡ	1		1			1	1
	上天草プロジェクトⅢ	1		1	1		1	1
特活	ホームルーム活動		1	1	1		3	3
合計			33 (2)	33 (2)	33 (1)		99 (5)	99 (2)

※各学科共通教科「情報」科目「社会と情報」は、専門教科「福祉」科目「福祉情報活用」代替
※（　　）内は、時間外介護実習
※地域福祉類型２年次の●2、３年次の★2からそれぞれ１科目ずつを選択
ただし、地域福祉類型２年次の「プログラミング」と３年次の「ビジネス情報」は、普通科および福祉科の２学科の生徒の選択科目とする。
※総合的な探究の時間は、学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」、「上天草プロジェクトⅡ」「上天草プロジェクトⅢ」で代替する。

２　各委員会議事録等

熊本県立上天草高等学校
地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）
第１回運営指導委員会　研究協議の要旨

令和元年（２０１９年）８月７日(水)
１４：００～１６：００
於　上天草高校視聴覚室

出　席　者

運営指導委員

荒木朋洋委員、足立國功委員、田中尚人委員、大倉尚隆委員

県教育委員会

那須髙久高校教育課長、釜賀健司校教育課指導主事

上天草高校関係者

生島敬史校長、石村秀一教頭、野崎公明事務長、清村純一郎教務主任、農田真紀進路指導主事、浅利竜生研究主任、森川弘毅研究副主任、元田有祈カリキュラム開発等専門家

オブザーバー参加

赤尾秀次氏（東海大学教学部九州教学課入試広報担当課長補佐）、松田俊太朗氏（上天草市役所企画政策課）、川畑明日香氏（熊本大学工学部社会環境学科４年）

内　　容

１．開会

（１）県教育委員会あいさつ
（２）学校長あいさつ
（３）関係者紹介
（４）日程説明

２．事業説明

（１）事業概要
（２）上天草高校の取組

３．研究協議

研究協議の座長を田中委員にお願いし、座長が協議を進行。以下はその要旨。

(田中委員)
生徒が「上天草高校を卒業して良かった」と思える未来を委員で共有したい。
・「誰かがやってくれる」ではなく、「自分がやるんだ！」が大事。
・いろんなコトを「自分事」として考える。
・この事業で高校生が伸ばすべき大切な「３つの力」。
考える力
地方創生という言葉だけで思考停止する（学生が多い）。「地方創生の先に何があるか。」自分の頭で考える。
やってみる力
先にいろんなコトを考えすぎて一歩ができない（学生）が多い。まず自分でやってみて失敗するという経験も大事。
振り返る力
やったことを自分で評価することができず、誰かに評価され決めてもらうのを待っている子どもが多い。
・計画書等では「３つの力」が盛り込まれているが、（対象となる）高校生と一緒に議論する必要がある。
・計画したことが全てうまくいったら苦労しない。３年間の取組の中で計画を改変するたびに、何が悪かったか振り返って欲しい。大変な作業なので（運営指導委員などの）外部の人間の助言が必要。「先生これが足りないのでは。」「これを忘れてませんか。」といったアドバイスをしていきたい。
・やっている生徒も先生も楽しめるような取組にしていかなければならない。
・高校生がこの取組を他人に説明できるくらい、理解できているか。学校を挙げての一体感を持つことができているか。その第一歩として、ポンチ絵よりも分かりやすい、１枚で取組を説明できるような資料を作る必要がある。そのことで、全生徒・職員が主体的に一体感を持って事業に取組めるようになる。１枚の資料の作成を高校生がやってみるのも良い。
・高校生が取組を理解し、中学生に教える（説明する）ことができるようになれば、達成感を味わうことができ取組に弾みがつく。できるだけ早い時期に中学生に教える場を設定した方が良い。
・上天草の「中学生が入りたい」「保護者が入れたい」と思うような高校の魅力化が必要。「上天草高校で大学進学もできますよ」「地元に就職してよかった」「上天草高校生を採用してよかった」という声を発信する必要がある。

(荒木委員)
・地方創生について、分けて考えていく必要がある。
住民の方の問題
人口の自然減少による市場の収縮、雇用の減少、流入者の減少。
若い人の問題
１８歳人口の流出。仕事がないのか？魅力がないのか？
具体的にどのような活動をするかの問題
地域と若者がいかに密接なつながりを持つかは、活動の内容が鍵。魅力ある活動（つながり）を地域に創り上げていくことが重要。
・この事業を成功させるには、一部の先生だけの取組ではなく、すべての先生が参加できる取組

にしていかないとダメ。すべての先生の取組が全校生徒の取組につながり、さらに地域に浸透していけば成功間違いなし。

(田中委員)

・大学生は卒業後自分の地元や他所へいってしまうが、地元の高校生は残ってくれたり帰ってきてくれる。この点は、地方創生のパートナーとしては大学生より高校生の方が有利。

(足立委員)

・この事業におけるコンソーシアムの役割は大きい。学校の先生だけでこの事業を進めるのは難しいので、コンソーシアムの構成員の方に積極的に協力してもらうと良い。

・マスコミ等から、「何年後かに今ある仕事の半分はなくなる」という脅しをかけられている。高校生は今やっている授業が本当に役に立つのかという不安を持っている。今回の事業を通して、この不安を払拭し、幸せな人生を歩めるという「肌感覚」を生徒に持って欲しい。

・先生ばかりが“しゃかりき”になっている印象を受けるが、地域の人たちのスポンサーシップが必要。「よし、一肌脱いでやる！」とカネ・ヒト・場所を提供するような場面が出てこないと、文科省の方針だけでは難しい。

・生徒の受容度（＝アクセプタンス）を広げる工夫を常に考えておかなければならない。

・同世代同士の交流は効果が高いので“学生と生徒”をキーワードに高大連携を地域に根ざすための手段として活用すべき。県産業教育振興会は熊本学園大と協定を結んだ。熊本学園大は地元就職７割、地元の社長の７割が熊本学園大卒と謳っており、マーケティングとマネジメントの学科を持っている。

・既存の研究発表大会を活用して、地域に存在を発信していくべき。

(田中委員)

・地元のスポンサーシップに関しては、最初に何かをやるひとが、金銭的に苦労するのは良くないので、（コンソーシアムを通じて）市役所や地元企業に声をかけて欲しい。

・普通科の生徒に「働くこと」や「働き方」について具体的にイメージさせたい。

(大倉委員)

・今回の事業では「地元に残って欲しい」という考えが中心だが、生徒の希望と本当に合っているか。大人の都合で生徒を振り回していないか考えながら進めるべき。この事業で生徒を“洗脳”して地元に就職させることが、生徒の幸せとは限らない。生徒の本当のニーズはどうか。

→【田中委員】この事業でやっている内容自体は、どこに行っても通用するので、やること自体は無駄ではないことをしっかり伝えていく。漏れることなく全ての生徒が取組むことが大切。進路の選択にあたっては、何回も自分の進路を（自分自身に）問えば良いのであって、他所に出て行くことが悪いことではない。

→【荒木委員】大学では入学時と卒業時にアンケートを取るが、上天草高校ではどのようにしているのか。

→【学　　校】年１回の「学校評価アンケート」や三菱UFJ マーケティングの「地域魅力化アンケート」で効果等を測りたい。

→【田中委員】必ず事前と事後のアンケートを取ること。自己評価をすることで自己肯定感にもつながる。

・この事業で取組む内容が、大学進学等の積極的な理由になるくらい周知し、生徒自身が自分のためにやっていることを感じて欲しい。

(田中委員)

・生徒の探究を深めるには、大人の価値観を押しつけることなく、生徒が前に進むのをいかに待つかが重要。くだらないと思えるような事柄でも探究させる度量が必要。

・イノベーションは過去を否定することではないので、今までの上天草高校の取組（コミュニティ・スクールの取組）を検証すべき。小さな改善で、小さくても課題を解決できたことが小さな自信を生んでいく。

(生島校長)

・高校の魅力化を進め、地域の活性化に寄与したい。まずは、本校の定員割れの状況を改善するため中学生・保護者・地域の意識を変えたい。しかし、一気には無理なので、地道に少しずつ変えていくしかない。

(田中委員)

・大人は変わることを嫌がるが子どもたちは変わることにドキドキして期待してくれる。少しずつでも大人たちに言われて変えるのではなく、自分たちで変えることができるんだという意識付けをしたい。

(足立委員)

・生島校長の挨拶の中に「SSH の天草高校、プロフェッショナル型の拓心高校と連携も考える」とあるがどのようなイメージか。

→【生島校長】３校でそれぞれやっていることを共有したり、コラボしたりできれば良いと考えているが、具体的な計画はしていない。

・この事業は上天草市との連携が中心なので、他所の高校や自治体との連携については難しいのではないか。

→【元田ＣＤ】天草諸島の自治体の連合があるので働きかけてみてはどうか。

・この事業の“地域”を、上天草市という小さな枠でとらえるのではなく、天草という大きな枠組みで捉えることで様々なバリエーションが出てくる。

→【田中】高校が連携することで、上天草市や天草市の枠を超えた取組ができるようになるのでは。上天草高校が発信源で「天草はひとつ」で取組めるようになれば良い。

・県産業教育振興会では、「いかにして、子どもたちを主役となすか。」を考えている。今後、どんな場面でも、事の大小を問わず、主役となれる Autonomy（＝自立性）が大事。

熊本県立上天草高等学校
地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）
第２回運営指導委員会　研究協議の要旨

令和２年（２０２０年）３月４日(水)
１０：００～１２：００
於　上天草高校視聴覚室

新型コロナウイルス感染症対策のため中止

令和元年度　上天草魅力化コンソーシアム第１回委員会　議事録

令和元年６月２８日（金）
１４：００～１６：００
於　上天草高校視聴覚室

出　席　者

コンソーシアム委員

小田心一委員、永田健吾委員（代理：鬼塚正二氏）、前方正広委員、岡元宏洋委員、山下勝一委員、赤瀬耕作委員、志村俊和委員、須中一久委員、杉本健一委員、水野龍幸委員、林田敏男委員、北岡秀敏委員、大窪直委員、芥川琢哉委員、岩崎良博委員、那須髙久委員、元田有祈委員、生島敬史委員

学校関係者

釜賀健司指導主事、石村秀一教頭、野崎公明事務長、浅利竜生研究主任、森川弘毅研究副主任

内　　容

１．開会

２．教育委員会挨拶

熊本県教育委員会　高校教育課　那須隆久課長が挨拶。

３．委嘱状交付

４．出席者自己紹介

５．会長選出

那須高校教育課長より会長に生島敬史校長を推薦。満場一致で承認。

６．会長挨拶

生島敬史会長が挨拶。

７．事業の概要説明

研究主任が説明。質疑なし。

８．協議

（１）年間計画について
研究主任が説明。質疑なし。→承認

（２）「上天草プロジェクトⅠ」について
研究主任が説明。質疑なし。→承認

（３）「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトについて
研究主任が説明。質疑なし。→承認

（４）意見交換
今回は特に意見が出ず、次回以降活発な意見交換ができるように働きかけ。

９．諸連絡

（１）魅力化アンケートについて
（２）次回の全体会の日程調整について
（３）住民との語り合いについて

１０．閉会

令和元年度　上天草魅力化コンソーシアム第２回委員会　議事録

令和元年（２０１９年）８月２２日（木）
１４：００～１６：００
於　上天草高校視聴覚室

出　席　者

コンソーシアム委員

永田健吾委員（代理：鬼塚正二氏）、岡元宏洋委員（代理：荒木勝樹氏）、山下勝一委員、赤瀬耕作委員、水野龍幸委員、大窪直委員、芥川琢哉委員、岩崎良博委員、那須髙久委員、元田有祈委員、生島敬史委員

学校関係者

釜賀健司指導主事、石村秀一教頭、野崎公明事務長、浅利竜生研究主任、森川弘毅研究副主任

内　　容

１．開会

会長挨拶、日程説明。

２．進捗状況・今後の概要について

研究主任報告。

（１）プロジェクトⅠ経過報告
（２）生と地域住民との語り合い」日程変更についての報告
（３）導委員会報告
（４）概要説明
（５）プロジェクト学習開始に伴うフィールドワーク等への協力のお願い

３．協議

（1）ロジックモデル（案）の提示・説明。元田委員が説明
（2）地域人材として求められる能力とその育成法についての検討
（ワークショップ）

■ワークショップにおける班ごとの発表内容■

【C班】

①イベントを活用

多種多様な人が集まる場でのネットワークづくりや地域の人に高校生がインタビューすることで地域の課題を発見できる場となる。また、行政や地域で主催しているイベントに事務局として参加し、運営することで地域のことを肌で感じることができる場となる。最終的には東京や大阪などで開催されている移住セミナーで地域のことを語ることを目標としてみてはどうか。

②交流を活性化する

高校生と中学生との交流では、高校生が中学生に対し、地域の良さを伝えるまたは語り合う場を設けてはどうか。高校生と小学生との交流では高校生が小学生に教える公営塾などを設置し、小学生が上天草高校を目標になるような取組を行ってはどうか。

③インターンシップの活用について

現在は仕事を体験するだけになってしまっているように感じる。そこで、生徒たち自身がどう働きたいかを明確にし、生徒たち自身で選択してインターンシップに行くことができるようにしてはどうか。そうすることで将来について考える力や仕事を知る力をつけることができる。

【A班】

①小中高交流について

高校生が小中学生に対して魅力を伝える場を設けてはどうか・地域交流について上天草バザールへ地域の人がより多く参加できる仕組みづくりが必要。また、様々な事業所や協議会、会合へ高校生が参加することで地域の現状により詳しくなり、地域の課題というものに気づいていけるのではないか。

②広域連携について

隣接する地域との連携やほかの高校との連携をもっと深めていくべき。また、全国から先進的な取組を行っている人などを講師として招き、講演会を行ってはどうか。

③人材育成について

先を見通して過不足に気づくことのできる人材や地域の良さを伝えることのできる人材を育成したい。

【B班】

①地元の課題を知る

市の予算や各課からの話を聞き、行政が何に力を入れているのか現状を知る。その上で、生徒自身が地域の主催するイベントに参加するなどし、地域のことを肌で感じる。また、自治会など地域の方と交流することで地域の課題や魅力に真に気づけるのではないか。

②交流

同じ規模の地域の高校生、都市部の高校生、同じ規模の地域の大人、都市部の大人などそれぞれの立場の人とそれぞれの地域の課題について意見を交換することで地域への理解や様々な視点から物事を捉えることのできる力が身に付くのではないか。

③事業化

地域の課題や魅力から行政や民間と組んで事業化していくことができれば未知の問題に取り組む力が養われていくのではないか。

（3）本事業計画への気づきについて

（鬼塚代理）報告会の周知方法はどうなっているか。
（研究主任）委員の方々の事業所からの通知や回覧板、学校ホームページなどを活用予定
（芥川委員）ビジネスプラングランプリにおいて、どういった研究がグランプリを取るのかについて共有できる機会はあるのか。
（研究主任）今の段階で予定はないが、確かに共有の機会は必要であるので機会を設けたい。
（赤瀬委員）地域の課題を見つけ、課題を解決するためのビジネスプランを創るだけでなく地域の強みや魅力を活かすようなビジネスプランを創れないか。
（研究主任）強みや魅力なのに生かし切れていないものを活かすようなビジネスプランや強みや魅力をさらに強化するようなプランも考えさせていきたい。

（4）本事業の愛称について

次回までの検討事項として保留

4．閉会

令和元年度　上天草魅力化コンソーシアム第３回委員会　議事録

令和元年１１月１日（金）
１４：００～１６：００
於　上天草高校視聴覚室

出　席　者

コンソーシアム委員

永田健吾委員、前方正広委員、岡元宏洋委員、山下勝一委員、赤瀬耕作委員、須中一久委員、水野龍幸委員、林田敏男委員、大窪直委員、芥川琢哉委員、那須髙久委員（代理：前田浩志氏）、元田有祈委員、生島敬史委員

学校関係者

釜賀健司指導主事、石村秀一教頭、野崎公明事務長、浅利竜生研究主任、森川弘毅研究副主任

内　　容

1．開会

（1）会長挨拶　上天草高校生島敬史校長が挨拶。

2．進捗状況の説明

研究主任が上天草プロジェクト関連の取組と今後の活動の概要について説明。
質疑なし。

3．全国サミットの報告

（1）永田委員から全体の報告。
（2）元田委員から本事業の概要をまとめて説明。
（3）研究主任から高校魅力化評価システムの分析について説明。
（赤瀬委員）学びの土壌というのは基本的に地域の学習環境とイコールなのか。
（研究主任）対応関係にはあるがイコールではない。学びの土壌を図るための項目。
（山下委員）知識と知恵という話があったが、知恵というのは具体的には地域課題解決活動が知恵につながるのか。
（元田委員）はい。自分で持っている知識や調べた知識などの知識があり、知識をどう使うかということが知恵であるということです。なので、知識を利用して地域課題の解決する力を知恵としました。

4．協議

（1）次年度設定科目のシラバスについて

浅利研究主任が説明。

（岡元委員）探究活動では、どういったことを行動、実践されていくのか。
（研究主任）ビジネスプラングランプリへの応募を目標に、地域の困りごとや課題を解決するためのビジネスプランの作成を行っていきたい。上天草の小中学校で実施されている起業家教育とリンクさせながら、ただ調べて発表するにとどまらず、継続的なビジネスとして成立できるようなものを目指していきたい。その中で、生徒を様々な機関や企業、専門家と繋ぎ、学びを深めていきたい。
（水野委員）では、企業を訪問したり、確認の電話を行ったりということを実際に行うのか。
（研究主任）そのようにしていきたいと考えています。不明なことがあれば生徒と専門家を繋いで学びを深めていければと考えている。
（芥川委員）ネットワーク活用講座について、普通にホームページを作ったりするのではもったいないのではないか。ホームページを作成していない企業とタイアップして、企業の意向を踏まえながら、企業のホームページを作成してはどうか。
（研究主任）上天草バザールのポスターのデザインはコンペを行い、１番であったものを採用しています。そのような形で、１つの企業のホームページを、企業の要望を聞き、作成しコンペして採用するというようなことを行うというアイデアではどうでしょうか。
（元田委員）おやつやカノンでは、オープンに先立ち、店内のデザインとして、生徒が黒板アートを行いました。オーナーは卒業生でもあり、何かあればお手伝いできればという話もいただいているので、協力していただけるのではないか。
（釜賀指導主事）動画の話で、上天草市役所ではロバートの秋山さんを起用されて動画を作成されている部署、天草のケーブルテレビとの協力などはしないのか。
（研究主任）やっていきたいと思います。ただし、公開するにあたっては、様々な制約があるかと思いますので慎重に行いたい。先進出前講座「情報コンテンツの実際」では芥川さん（天草ケーブルテレビ）にお願いできないかと考えている。
（須中委員）上天草プロジェクトⅡでは、実際に起業されている方を招いて講演してもらってはどうか。
（研究主任）上天草プロジェクトⅡでは、個々の活動が多くなるので、実際に起業されている方の講演など全体で話を聞く場面を設定するようにしていきたい。
（芥川委員）ネットワークの活用講座やウェブデザインと広告、コンテンツの作成とあるがこれは全て全員が受講する座学という認識でよいか。
（研究主任）パソコン室での実習という形で行いたいと考えている。商業科で扱っている教科書を根拠にしながら実習を行っていきたい。その中で、ゲストティーチャーとして専門家の方に入っていただきアドバイスなどをいただくことができれば、より実践的になっていくのではないかと考えています。
（芥川委員）座学を行った後で、特性を持った生徒同士でグループを作っていくという認識でよいか。
（研究主任）最後には作品を作り上げるというところまでをこの授業の最終到達点としたい。週に１回の授業となり、多くのことはできないので、１学期で作品制作までを完了するところまでにしたい。
（芥川委員）生徒にも様々な特性があると思うので、グループを作ることで生徒を活かしながら作品を作ることができるのではないか。
（永田委員）この計画について、申請時のものは盛りだくさんで生徒は大変だと思うのですが、この１年で未消化のものはあるか。
（研究主任）（資料を示しながら説明。）２つほど講義については未消化の部分があり、新たに一つ加えたものもある。また、生徒が調べたり、考えたりするフィールドワークの時間を想定より取れていないのが現状である。
（永田委員）生徒が考え、判断するときに必要なノウハウのようなものを学ぶ機会や情報を消化しながら考えるのではなく、情報を消化する時間をとったほうがいいのではないか。
（研究主任）現在４人で１班という班構成で、２班に１人の教員が付くという形になっている。現状では、発表などのアウトプットの作業に重心が傾きがちで、探究の仕方についてじっくり教えることができていないという点が反省事項で次年度以降に活かしていかなければならないと思っている。
（赤瀬委員）大学との連携について、大学の休みの期間に大学生との交流など連携する場面が今年度は進んでいないように思える。小中高大の連携が進むように計画の中で練ってもらいたい。
（研究主任）大学生と繋がる場面というのは今年なかなか設定できなかったが、一部の活動では大学生にも参加してもらうことができた。次年度以降、大学生と交流する時間を増やせるよう計画を立てていきたい。
（赤瀬委員）大学側にも高校からの依頼を受託する団体はあると思うので、まずは語り合いなどの交流の場を設けて、連携を進め、より高いレベルでの地方創生の活動にしていけ

ればいいのではないか

（2）本事業の愛称について

学校からの提案は

案1　「上天+」　（かみあまプラス）

案2　「ＨＣＬ　ｉｎ　上天草」

High School collaborating with local community「地域社会と協力する高校」

案3　「上天草HMLA」

High School to make the local community attractive「地域社会を魅力的にする高校」

案4　「上天草HMAL」（かみあまくさハマル）

High School which makes an attractive local community「魅力的な地域コミュニティを作る高校」

（芥川委員）「Ka-MAX」を提案。Kは上天草のK。ポルトガル語で昔は天草のことをAMAXAと表記。上天草の魅力を最大限に発揮しようという意も含んでいる。また、Kaには経営という意味もかけてある。

（永田委員）言葉の意味に重きを置きながら考えると良いニックネームができるのではないか。ニックネームの意味をすらすら言えるようなものにすると良いと思う。

（3）全体を通して

（釜賀指導主事）上天草の子供たちに知っておいてほしいことは地元の方から見てどんなことか。

（須中委員）上天草の介護医療の現状について知っておいてほしい。

（芥川委員）上天草の地理・歴史について知っておいてほしい。上天草のことを地域外の人に語ることができれば、上天草のことを魅力的に感じてもらえるのではないか。

5．閉会

（1）熊本県教育委員会挨拶　熊本県教育委員会高校教育課　前田審議員が挨拶。

（2）会長謝辞　生島敬史会長が謝辞

令和元年度　上天草魅力化コンソーシアム第４回委員会　議事録

令和２年１月１０日（金）

９：３０～１１：３０

於　上天草高校視聴覚室

出　席　者

コンソーシアム委員

永田健吾委員、前方正広委員、岡元宏洋委員、山下勝一委員、赤瀬耕作委員、杉本健一委員、北岡秀敏委員、芥川琢哉委員、岩崎良博委員、元田有祈委員、生島敬史委員

学校関係者

石村秀一教頭、野崎公明事務長、浅利竜生研究主任、森川弘毅研究副主任

内　　容

1．開会

（1）会長挨拶　上天草高校生島敬史会長が挨拶。

2．上天草市の総合戦略について

永田委員（上天草市役所企画政策課長）から「上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についての説明。質疑なし。

3．事業の進捗状況報告

（ア）上天草プロジェクトⅠについて

研究主任が前回（１１月１日）以降の取組を説明。

（赤瀬委員）活動の目標の一つが上天草高校への入学者の増加だが、この事業を小中学校や地域にどのようにＰＲ（広報）しているのか。せっかくの取組も中学生や地域の人たちに知られなくては、入学生の増加につながらないのではないか。

（研究主任）小中学校への周知が弱いとは感じている。エキスパート生徒派遣等の機会で、取組を伝えていきたいとは思っているが現時点では大矢野中との取組だけになっている。できるだけ多くの小中学校に生徒を派遣し、中学生と高校生がふれあう機会を作り出せるよう、中学校のコーディネーターとも相談していきたい。

（赤瀬委員）適切な時期に適切なＰＲが必要。せっかくの取組に対して、子ども（小中学生）や保護者の理解が進まなければ（入学者増加という）目標に直結しない。

（岡元委員）２月５日（水）実施予定の研究成果発表会で発表するビジネスプランは、その後どのようになるのか。

（研究主任）２年生全員履修の上天草プロジェクトⅡに引き継ぎ、発表したビジネスプランの磨き上げ、もしくは新たな課題（プラン）に取組むようにする。そのなかでフィールドワークでの実地調査やイベントを開催してプランの検証を行うようなことをしていきたい。来年９月にもビジネスプラン・グランプリに応募したい。

（永田委員）赤瀬委員の意見にあったＰＲ活動は重要。市役所にも周知が足りないという意見をいただく事がある。市のＨＰ、市報、回覧板、チラシの全戸配布だけでなく、様々な会合に出向いて説明したり、チラシを配るなど、ありとあらゆる方法で情報を発信している。カリキュラム開発等専門家発行の「地域協働だより」を市のネットワークを使って全戸配布したり、マスメディアを利用するなど様々な手法で本気になって取組んで欲しい。上天草高校の取組を地域の方に、いかに知ってもらうと言うことが今後重要なので、手を抜かずにやって欲しい。

（赤瀬委員）次年度予算について、市の教育委員会でも、引き続き地方創生の予算を申請しているので、小中学校との交流に関しては、市の予算を活用しながらもっと深く交流できる体制作りをしていきたい。

（イ）「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの進捗状況について

研究副主任（森川）が今までの取組を説明

（赤瀬委員）すべての教科でルーブリック評価をしていくのか。

（副主任）　教科・科目毎にルーブリックで評価するのではなく、３年間通じて１人の生徒が到達する目標を示しており、各教科の強みを生かしながら取組んでいくものです。

（赤瀬委員）上天草プロジェクト等の学校設定科目でなく、各教科の単元の中でやっていくということか。

（副主任）　単元毎の評価ではなく、４～５月と１２～１月の１年間で２回評価する。その２回を比較することで生徒の生徒成長を見えるようにしたい。

（元田ＣＤ）探究的学習の時間だけでなく、普通の授業でも画一的な学びではなく、ルーブリックで見える化した内容を基に個別・具体的な学習につなげていくのが文科省の考えだと捉えている。

（赤瀬委員）その文科省の流れを先進的に実施していくということか。

（副主任）　新学習指導要領で求められる能力もこのルーブリックに盛り込んである。

（岩崎委員）このルーブリック評価表は、上天草高校で開発したものか。とても合理的だと感じる。基本・1が高校１年生で、発展・3が卒業までの目標になっていてとても良い。もし可能なら中学校でも利用したい。中学校で基本・1の能力に近い力を身につけさせることを目標にできればと思う。

（赤瀬委員）上天草市として一貫した目標を持って取組めば効果も大きくなると期待する。

（岡元委員）この評価の評価者は誰か。

（副主任）　生徒の自己評価で、一人一人が自分の到達度を考えて評価する。それを継続的に見えるようにすることで、自分の成長を実感できるようにしたい。

（山下委員）自己評価と教師などによる評価はズレがでるものだが、教師からアドバイスやフォローをすることはあるか。自己評価だけでなく教師の介入があれば、生徒も良い方向に成長できる。

（岡元委員）自己評価だと基準に個人差が生じるので、教師が評価に加わる仕組みがあればよいと感じる。また、評価の基準が定性的なものばかりなので、定量的に示した方が良いのではないか。

（永田委員）市役所でも自己評価をしたうえに評価者である管理職が評価していく。しかし、自己評価はとても大事で、自分自身で成長を感じたり、振り返りができるので、自己評価の部分は残していくべきだ。トライアル的なやり方として自己評価で自分自身の向き合うという意味でよいのではないか。

（芥川委員）この評価は学習成績に影響しない。天草ケーブルネットワークでも１．５か月１回、部下が自己評価したものを基に面談形式で、評価者である管理職が修正を加えて、部下の同意を取りながら評価を下していきます。自信がなく自己評価が低すぎる徒感じる場合と自信があって自己評価が高すぎるのではと感じる場合があるのは当然なので、自社の面談をするというやり方も参考にしてもらいたい。

（赤瀬委員）あくまで教育の一環で、生徒個人がどれだけ伸びるのかを計ることを主体に考えて評価してもらいたい。もし評価者が介入する場合でも、評価を下げる必要はなく、できたことを褒めるようなことができれば次につながる。絶対評価としての評価ではなく、自信のないところを伸ばしていくという観点で、面談でなくてもプラスのコメントを記入するだけでも良いと考える。

（研究主任）この評価は、ペーパーテストでは評価できない部分を見てあげることができる。教師と生徒が目標とする行動（基準）を共有することで、日常の学校生活であれができた、これができたと褒めて、自信をつけさせ、学校生活以外でも自信を持って「聞く」「話す」「表現する」ことができるようにするためのツールとして活用したい。

（元田ＣＤ）このルーブリックの発展・3の先にあるのが目指す地域人材像なので、段階的に目指すべきものが整理できており、教師も生徒もわかり安い目標になっている。

（赤瀬委員）小中学校でもこのような視点で子どもたちを見ることができれば、子どもたちの活動も大きく変わって、良い方向に進むのではないか。

（生島委員）自己評価と教師から見た評価は違って良い。生徒が自分自身を評価したものも尊重したい。この評価表にある内容は、定量化することが難しいものが多く、定性的だが具体的な基準として機能すると考える。

4．協議

（ア）本事業の愛称について

前回、芥川委員提案の「Ｋ＃Ａｍａｘ」に決定。同時にロゴを承認。

（イ）次年度の事業計画およびシラバスについて

研究主任が説明。

（研究主任）地域理解講座の①か②で「上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についての説明していただく事で、上天草市の課題の全体像を把握し、その後の各論に進める。それは可能か。

（永田委員）４月になれば総合戦略も完成し、取組も始まっているので、具体的な説明が可能。それを導入として掘り下げていくことで、理解がより深まるはず。

（山下委員）学校運営協議会でも、医療や福祉分野の講座が必要ではないかとの指摘があった。市の現状を考えると入れるべきではないか。

（研究主任）実施時期を含めて検討したい。

（ウ）その他

（山下委員）取組がどのようにして行われているかはわかるが、生徒がどのように成長・変容したかが情報不足で見えづらい。今後、報告の中に盛り込んでもらえないだろうか。

（研究主任）今年度スタートした事業でデータの蓄積は行っている。比較対象がないので、高校魅力化アンケート等も活用しながら、次年度以降は変容や成長が見える化できると考える。

（研究主任）次年度は生徒も成長しているので、小中学校等に生徒を連れて行きたい。本校生徒をうまく活用できるような場面があれば教えていただきたい。

（山下委員）今年度は大矢野中学校との連携はできているが、他の学校との連携も深め、高校生が積極的に出向くことで高校の魅力発信につなげてほしい。

5．閉会

会長謝辞　生島敬史会長が謝辞

令和元年度　上天草魅力化コンソーシアム第５回委員会　議事録

令和２年２月１２日（水）
１０：００～１２：００
於　上天草高校福祉実習棟介護実習室

出　席　者

コンソーシアム委員

永田健吾委員、岡元宏洋委員、赤瀬耕作委員、志村俊和委員、水野龍幸委員、林田敏男委員、芥川琢哉委員、岩崎良博委員、元田有祈委員、生島敬史委員

学校関係者

石村秀一教頭、野崎公明事務長、浅利竜生研究主任、森川弘毅研究副主任

内　　容

１．開会

（ア）会長挨拶　上天草高校生島敬史会長が挨拶。
（イ）日程説明

２．協議

（ア）本年度の事業報告
研究主任が説明。質疑なし。（ご意見は（イ）の説明後に）

（イ）設定した目標の進捗状況、成果、評価
研究主任が説明。

（岡元委員）成果目標のｉ「高等学校卒業後、高等教育機関へ進学し、将来地元に戻って就業したいと考える生徒の割合」が2021年の到達目標60%に対して37.9%と低くなっているが、その原因は何か。

（研修主任）詳しくは不明なので分析したい。感覚としては、まだ１年生なので「進学したい」という気持ちだけで、その後の就業場所にまでは思いが至っていないのではないかと考えている。

（岡元委員）もし分析が可能なら、次年度のプログラムに反映させる必要を感じる。

（芥川委員）成果発表会で発表したビジネスプランは、どこまで継続して取組むのか。継続することで、地元に就職したいという思いも強まるはずだ。

（研究主任）継続してテーマに取組むか、新しいテーマに取組むか生徒自身が考えて決めるようにしたい。いずれにしても来年９月にもビジネスプラン・グランプリに全員が応募できるようにしたい。

（芥川委員）もし起業したいという生徒が現れたら、学校としては応援するという認識でよいか。

（研究主任）是非、起業してもらいたいと思っている。

（永田委員）私も岡元委員と同じく、成果目標の項目ｉが気になる。高校卒業後すぐに地元就職を希望する生徒の割合64.9%に対し、半分程度に留まっている。決して働く場所がないというわけではなさそうなので分析をお願いしたい。
また、委員以外の地域住民との繋がり強化したり、地元のキーパーソンなる人を見つけていく活動をしていく必要がある。各地区のそういう人たちを巻き込むことができれば、もっと地域全体が盛り上がるのではないか。

（教頭）　学校の中にいると、地元のキーパーソンに関する情報に限りがある。コンソーシアム委員の皆様の協力をお願いしたい。

（永田委員）成果目標の項目ｃ「地域の課題を発見し、解決見向けて意欲的に取組む生徒の割合。」は２・３年生（事業対象外生徒）66.2%に対して１年生（事業対象生徒）93.5%。項目ｄ「将来、地域のために貢献したいと考え、行動する生徒の割合」は２・３年生（事業対象外生徒）59.7%に対して１年生（事業対象生徒）87.1%となっており、明らかに事業の成果が見えている。
地域の課題を発見して、解決に向けて取組んでいくという活動は、まさに我々（市役所）は仕事としてやっている、正直なところ何が正解か分からない部分もある。だからこそ、解決方法を考えるというプロセスが重要。できあがったビジネスプランなどの解決策が具体的かどうかより、そこに至るまでのプロセスにスポットをあてるべき。

（須中委員）地域理解講座の報告で、各講座毎の数値が示されているが、これは生徒個人のアンケートが基となっているのか。また、メモがとれたかどうかで講座毎にばらつきがあるが、「どんなところをメモすべきだったか。」など、フィードバックする仕組みはあるのか。振り返りがあれば「メモがとれなかった」という事態は起きないのではないか。

（研究主任）記載してある数値は生徒の自己評価アンケート。フィードバックについては、ワークシートに講座内容の要約をする欄があり、その欄には評価基準を示している。評価基準は、これとこれが書かれていたらＡという風になっているので、評価基準というゴールから逆算してメモと聞き逃さないということが必要になっている。要約の評価は各担任教師が実施し、ＡＢＣＤの評価をつける。このことで要約がうまくできなかった生徒は、メモもしくは聞くことがうまくできなかったと自己評価している。

（岩崎委員）次年度以降の課題及び改善点の（２）「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの充実について。中学校でも地域のことを調べて発表させると、グラフや表を作るために割合の勉強が、うまく伝えるための言葉遣いの勉強が必要であり、うまくできなかったら振り返って勉強する必要が出てくる。地域の課題を解決する取組は、地域のためになるだけでなく、生徒自身の学力にもプラスの効果がある。上天草プロジェクトだけでなく、「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトは重要な意味を持っていると考える。

（赤瀬委員）市の教育委員会では、前回示された、「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトにおけるルーブリック評価の基本・１までを市の中学校の目標として掲げるように考えている。
また、取組により上天草高校職員の業務負担も多くなっていると思うので、バランスを考えながら頑張って欲しい。
もうひとつ、課題としてＩＣＴの活用が挙げられていた。ＩＣＴに特化してやった地域はないので、ビジネスプランもＩＣＴに特化したものがあっても良いと考える。

（元田ＣＤ）生徒の探究活動の中でＩＣＴを利用した方が良いものは積極的に取り入れたい。今後、東京都立新宿高校とＩＣＴを利用した連携を進めていきたい。

（赤瀬委員）ＩＣＴの技術・知識は武器になるので、積極的に取り入れて欲しい。

（芥川委員）成果目標の項目ｆ「自らの課題意識をプレゼンテーションし、伝えることができる生徒の割合」が2021年度目標70%に対して、１年生が69.4%と目標達成に近づいている。しかし、表現する力やリーダーシップの育成を考えると目標設定が低いのではないかと考える。目標を高く修正して良いのではないか。

（研究主任）数値として、目標値まであと少しまで来ていることと、質的にも研究成果発表会で生徒が堂々と質疑応答できていることを考え、数値においても質のおいても目標を上げていかなければならない。

（ウ）次年度の事業計画
研究主任が説明。

（元田ＣＤ）「地域協働だより」の今年度第３号を発行する。本校の活動と地域課題の解決をやっている旨を地域の方に知ってもらう事を目的に、市役所の協力を得て全戸配布する予定です。

（水野委員）壱岐商業から学校訪問を受けているが、どのような情報交換をされたのか教えて欲しい。

（教頭）　本校の取組を説明することが中心の内容だった。地域性はよく似ていたが、壱岐には高校が二つあるので、本校のように地域を挙げてというのが難しい様子だった。本校が上天草市から全面的にバックアップされていることがとても恵まれていると感じた。ＩＣＴの設備等が充実した後には、遠隔での連携がしたいと伝えてある。

（赤瀬委員）先日、菊池市教育委員会がこの取組について話を聞きに来た。この事業をやっているという情報は広まっていくので、効率的な情報の出し方と出すべきでない情報を出さないという整理をしておいた方が良い。個人情報を含めて情報の管理を徹底しなければならない。

（教頭）　菊池に関しては、菊池高校の校長先生と教頭先生、菊池市の生涯学習センターの所長２人が本校においでになって、地域を挙げて協働学習やコミュニティ・スクールに取組むつもりではないだろうか。

（赤瀬委員）このような事業は校長先生のリーダーシップが大切。生島校長はご退職なので、次の校長先生にもしっかり引き継いでもらいたい。

（岩崎委員）中学校で上天草高校の取組を元田ＣＤに講演してもらうことは可能か。全校生徒、職員に伝える機会をつくりたい。

（元田ＣＤ）中学校に限らず、市内の各種団体や事業所に本校の取組を伝える機会をいただければ幸いです。

（永田委員）高校で、この事業に直接携わる先生以外の先生は、この事業についてどのように考え、協力をしていただけているのか。

（元田ＣＤ）７月に職員アンケートを取っている。上天草プロジェクトＩに直接携わっている１学年の職員と２・３年の職員は莉事業に対する理解度に開きがある。２・３年生の先生方への働きかけを行ってきた。結果、研究成果発表会を経て、次年度以降の取組等に関する質問が増えた。全職員に浸透してきたという手応えを感じている。

（生島委員）様々な部分で、１年生が２・３年生より意識が高いことを２・３年生担当の職員も感じてきている。この事業に対して「取組んだ方が良い」「取組んでいきたい」という意識が職員間に広まってきている。

（永田委員）来年度、市役所企画政策課の事業で、姫戸・龍ヶ岳地区の魅力発見のためのワークショップを予定している。上天草高校生徒にも参加してもらいたい。

（研究主任）前回も話題に上がった課題である、地域住民への取組の周知が悩みの一つ。上天草高校取組を紹介させていただき機会や生徒が参画できる取組があれば教えて欲しい。

（元田ＣＤ）地域や保護者の意識を変えることは、高校の魅力化に繋がり、生徒数の増加も期待できるので、積極的に出向いていきたい。

（赤瀬委員）この取組のＰＲを上天草市内だけでなく、近隣の地域にも広げる工夫が必要。このような「とんがった取組」ができている今こそチャンスである。

３．閉会

会長謝辞　生島敬史会長が謝辞

令和元年度指定
地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）
研究開発実施報告書（１年次）

令和２年３月発行

発行者　熊本県立上天草高等学校
住所　〒869-3603　熊本県上天草市大矢野町中 5424
電話　0964-56-0007　FAX　0964-26-5025

印刷所　シモダ印刷株式会社
住所　〒869-0562　熊本県宇城市不知火町長崎 240-1
電話　0964-32-3131　FAX　0964-33-1598